

第3章 調査結果の概要と分析

調査結果の概要(全体)

1. ユニバーサルデザインについて(問 6～10)

○全体の約7割の人が「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていると回答しており、言葉そのものの認知度は高いことが分かります。特に20代における認知・理解度が高く、この世代は主に学校教育を通してユニバーサルデザインについて学んでいます。一方で、言葉の意味を知らないという人が全体の約半数を占めており、依然として言葉の理解度は十分ではない状況です。

○全体の約7割の人が、日常生活全般でユニバーサルデザインが浸透していないと感じています。分野別に見ると、思いやりやおもてなしのこころを育む取組、ユニバーサルデザインの必要性や重要性の意識啓発などの「意識づくり」における浸透率が特に低く、どんなにサービスや情報を提供しても多様な人々への偏見や差別がなくならなければ意味がない、ユニバーサルデザインの意味や重要性を理解し一人ひとりの意識を変えなければならない、といった「こころのユニバーサルデザイン」に対する認識が広がっているとと言えます。また、災害時に備えた案内看板や誘導サインの整備、情報の得やすさや分かりやすさを求める意見も多く、防災情報へのユニバーサルデザイン導入も強く求められています。

2. 「こころのユニバーサルデザイン」について(問 11～16)

○障がいのある方や外国の方が困っている場面に遭遇したことがある人のうち、「手助けしたいと思っているが、行動に移すことができない」「手助けしたくない」と回答した方の多くがその理由を「手助けの仕方が分からない」と回答しており、困っている人に対し思いやりのある行動を取ることをできない理由の多くが相手への理解不足によるものであることがうかがえます。

○「こころのユニバーサルデザイン」実践のために必要だと思うことについては、「学校教育などで『こころのユニバーサルデザイン』を学ぶこと」との回答が最も多く、義務教育の中ですべての人がユニバーサルデザインの概念を学ぶことが求められています。また、外国の方や障がいのある方、高齢者などへの対応やサポートの方法を学ぶ場や情報発信が必要との声も多く、大人の理解促進も重要な課題であると認識されています。

3. ユニバーサルデザイン(「こころのユニバーサルデザイン」を含む)全般について

- 妊婦や子ども連れの方、障がいのある方等の様々な状況の方たちに必要だと思うユニバーサルデザインについて、段差のない道路や安全に利用できる設備・施設の整備、案内の多言語表示等の分かりやすい情報提供、働きやすい環境づくりや支援などの具体的な例が挙げられる中、どのような状況の方に対しても、まずは相手の状況を理解すること、思いやり・気づかい等の「こころのユニバーサルデザイン」が必要との声が多く寄せられました。

- 新型コロナウイルス感染症の影響下における「こころのユニバーサルデザイン」について気付いたこと、感じたことについては、ソーシャルディスタンス等、感染防止のため周囲を気づかう行動をする人が増えたとの回答がある一方、他人の行動に敏感になり過剰に反応する人や、自分の事しか考えていないような心に余裕のない人が増えたとの回答も多く挙げられ、人々の不安を解消するために、正しく分かりやすい情報提供が求められています。

- 全体を通して、ユニバーサルデザインの概念が分からないため普及・啓発が必要、分かりやすい事例を周知してほしいとのご意見を多数いただきました。また、公共性の高い施設や設備にユニバーサルデザインを早期に取り入れてほしい、ICTやスマートシティの取組と連動させて推進すべきとの声も多くありました。

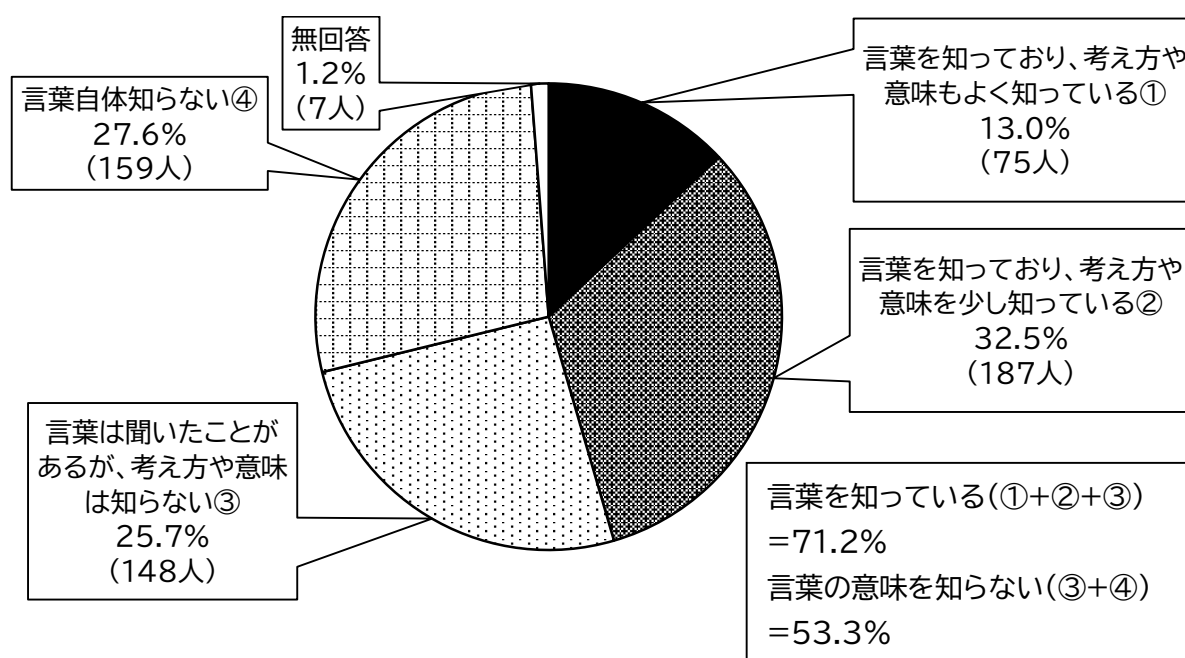
1. ユニバーサルデザインについて(問 6～10)

【「ユニバーサルデザイン」という言葉の認知・理解度】

問6:あなたは、ユニバーサルデザインという言葉を知っていますか。

<全体>

○全体の71.2%の人が言葉を知っていると回答しており、言葉そのものの認知度は高いことが分かります。一方で、言葉の意味を知らないという人が全体の53.3%を占めており、依然として言葉の理解度は十分ではない状況であることが分かります。



<比較>

○県の世論調査(※)においても、言葉を知っている人の割合は73.8%と市全体とほぼ同程度の割合です。しかしながら、「言葉を知っており、考え方や意味もよく知っている」人の割合は市全体より9.2ポイント高く、県全体に対し、市全体の方が積極的な理解度はやや低いことが分かります。

(※)令和元年度福島県県政世論調査【問9】の結果

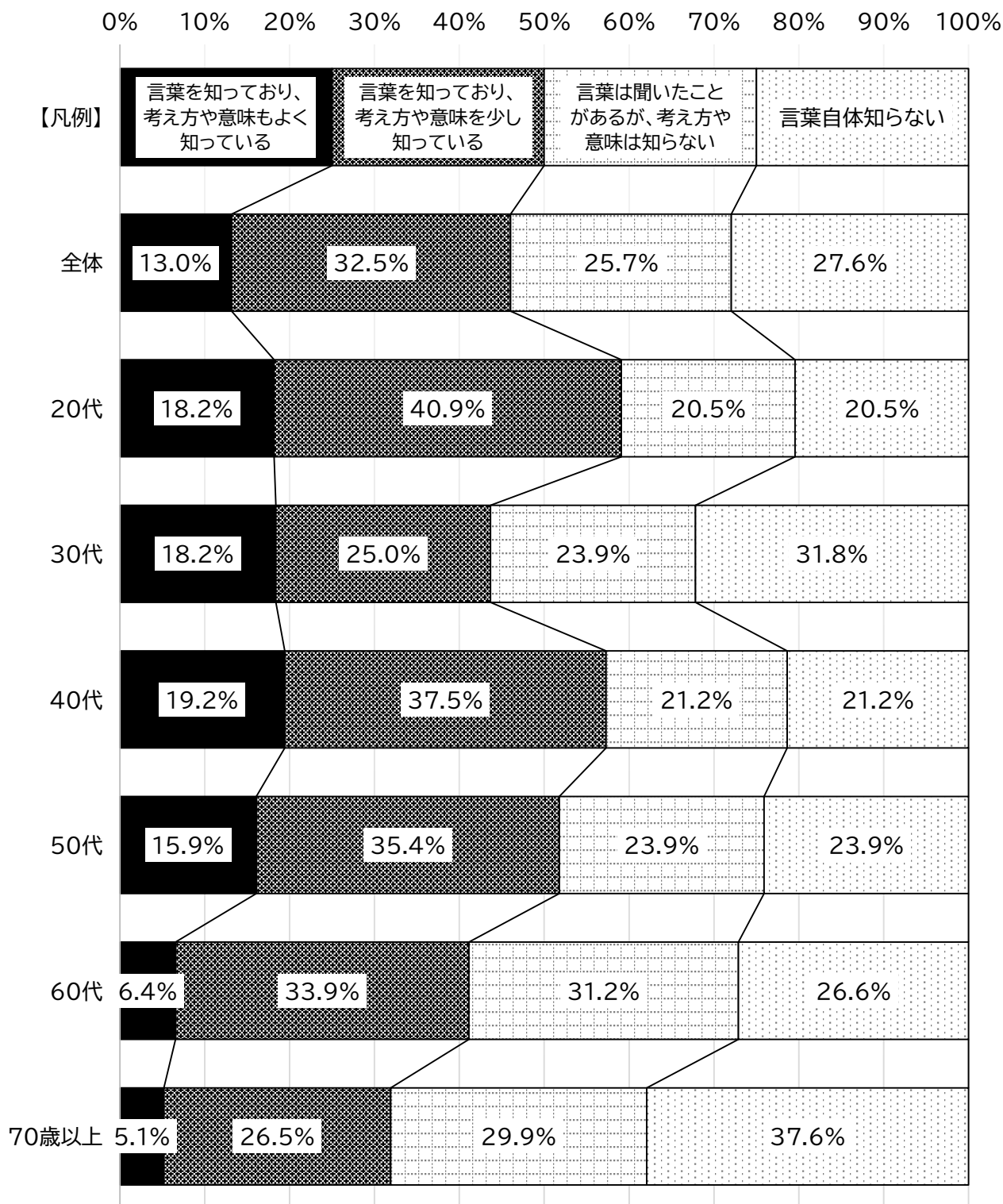
項目	言葉を知っており、意味や考え方もよく知っている①	言葉を知っており、意味や考え方を少し知っている②	言葉は聞いたことがあるが、考え方や意味は知らない③	言葉自体知らない④	無回答
割合(全体)	22.2%	24.3%	27.3%	24.8%	1.5%

言葉を知っている(①+②+③)=73.8%、言葉の意味を知らない(③+④)=52.1%

第3章 調査結果の概要と分析

<年代別>

○年代別では20代、40代50代、60代で認知度が70%を超えています。最も認知度が高いのは20代で、79.6%の人が言葉を知っていると回答しています。一方、最も認知度が低いのは70代の61.5%であり、30代を除き、年代が上がるにつれて認知度が下がる傾向にあることが分かります。



第3章 調査結果の概要と分析

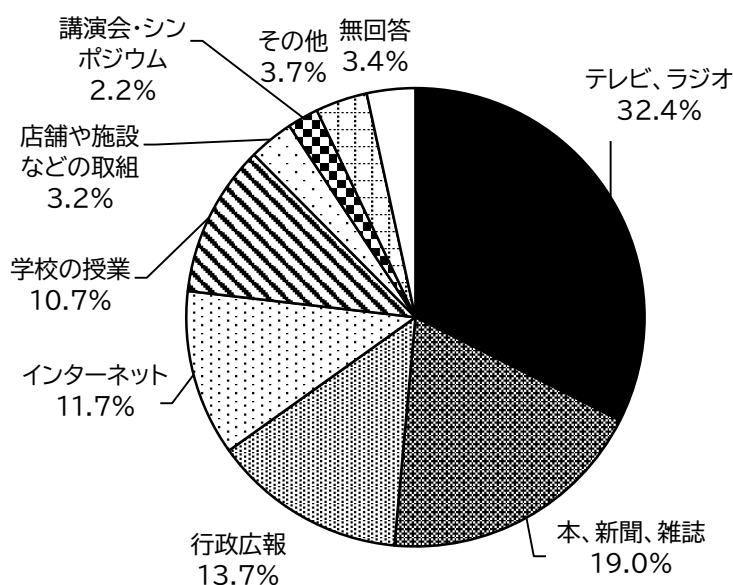
【「ユニバーサルデザイン」という言葉を知ったきっかけ】

問7:問6で「1.考え方や意味もよく知っている」、「2.考え方や意味を少し知っている」、「3.考え方や意味は知らない」と回答した方に伺います。「ユニバーサルデザイン」という言葉をどのようにして知りましたか。

<全体>

○全体では「テレビ、ラジオ」が32.4%と最も多く、「本、新聞、雑誌」19.0%、「行政広報」13.7%と続いており、日常生活の中で目にする様々なメディアが知るきっかけになっていることが分かります。

項目	人数	割合
テレビ、ラジオ	133	32.4%
本、新聞、雑誌	78	19.0%
行政広報 (市政だより、市のホームページなど)	56	13.7%
インターネット	48	11.7%
学校の授業	44	10.7%
店舗や施設などの取組	13	3.2%
講演会・シンポジウム	9	2.2%
その他	15	3.7%
無回答	14	3.4%
計	410	100.0%



<年代別>

○年代別では、20代で約半数の54.3%が「学校の授業」と答えており、問6においても20代の言葉の認知度が最も高いことから、学校教育がユニバーサルデザインの認知や意識醸成に寄与していると考えられます。また、60代、70歳以上においては「行政広報」の割合が20%以上と他の世代より高くなっており、行政による広報活動への関心の高さがうかがえます。

	テレビ、ラジオ	本、新聞、雑誌	行政広報	インターネット	学校の授業	店舗・施設などの取組	講演会、シンポジウム	その他	無回答
20代	25.7%	2.9%	0.0%	8.6%	54.3%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	42.4%	8.5%	11.9%	13.6%	15.3%	6.8%	1.7%	0.0%	0.0%
40代	33.3%	16.0%	11.1%	14.8%	13.6%	3.7%	2.5%	2.5%	2.5%
50代	29.4%	22.4%	8.2%	15.3%	4.7%	1.2%	5.9%	7.1%	5.9%
60代	30.8%	28.2%	20.5%	7.7%	1.3%	1.3%	1.3%	6.4%	2.6%
70歳以上	31.9%	25.0%	23.6%	8.3%	0.0%	1.4%	0.0%	2.8%	6.9%

第3章 調査結果の概要と分析

【「ユニバーサルデザイン」への関心度】

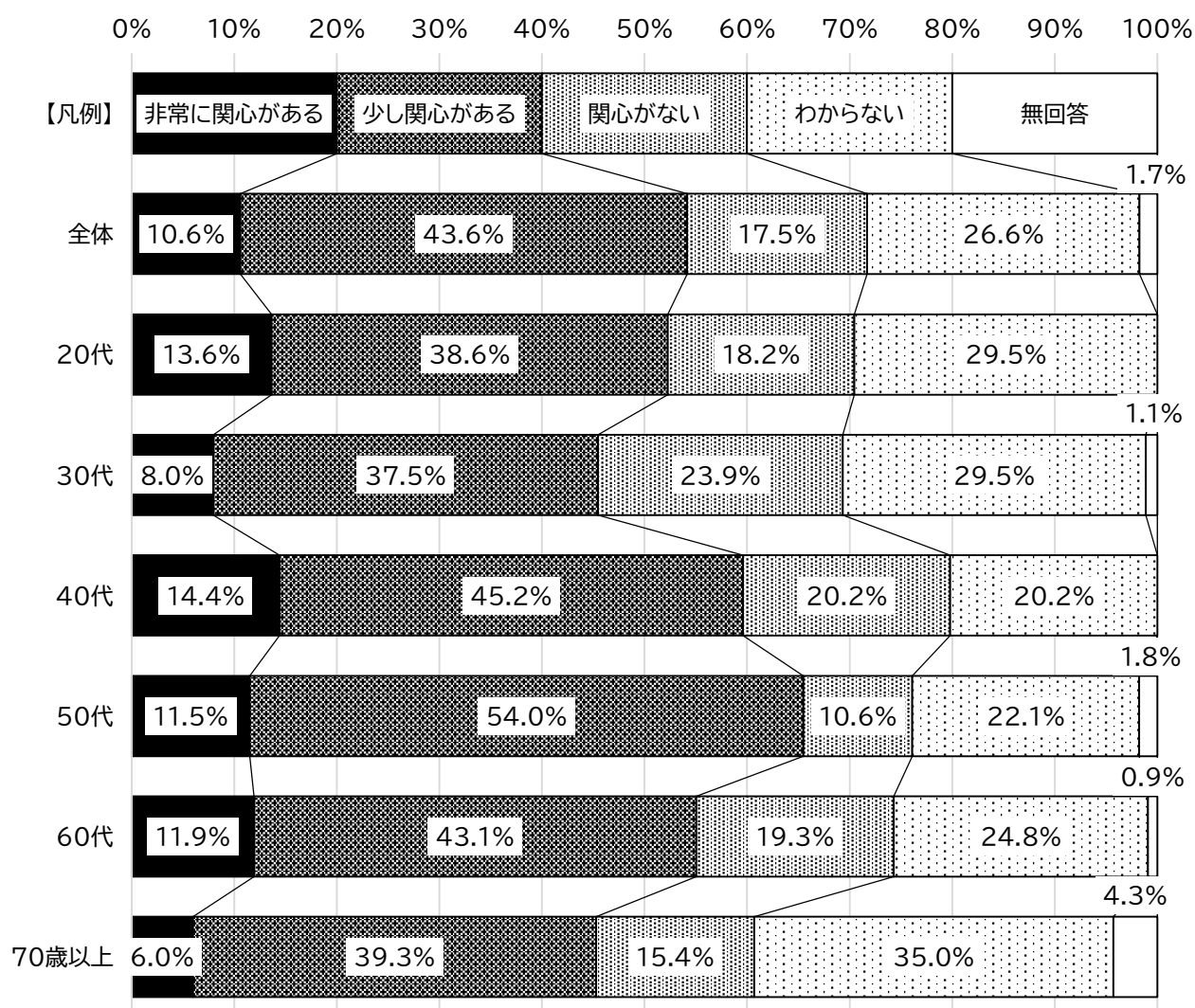
問8:あなたは「ユニバーサルデザイン」に関心がありますか。

<全体>

○全体では54.2%が関心がある(「非常に関心がある」「少し関心がある」と回答しており、半数以上の人がユニバーサルデザインに関心をもって生活していることが分かります。

<年代別>

○年代別では50代が65.5%で最も高く、20代、40代、60代で50%を超えています。一方で30代、70歳以上では約45%と若干低くなっており、この傾向は問6での言葉の認知度と比例しています。このことから、ユニバーサルデザインに関心をもつためには、まずは言葉とその意味について理解する必要があると推測されます。

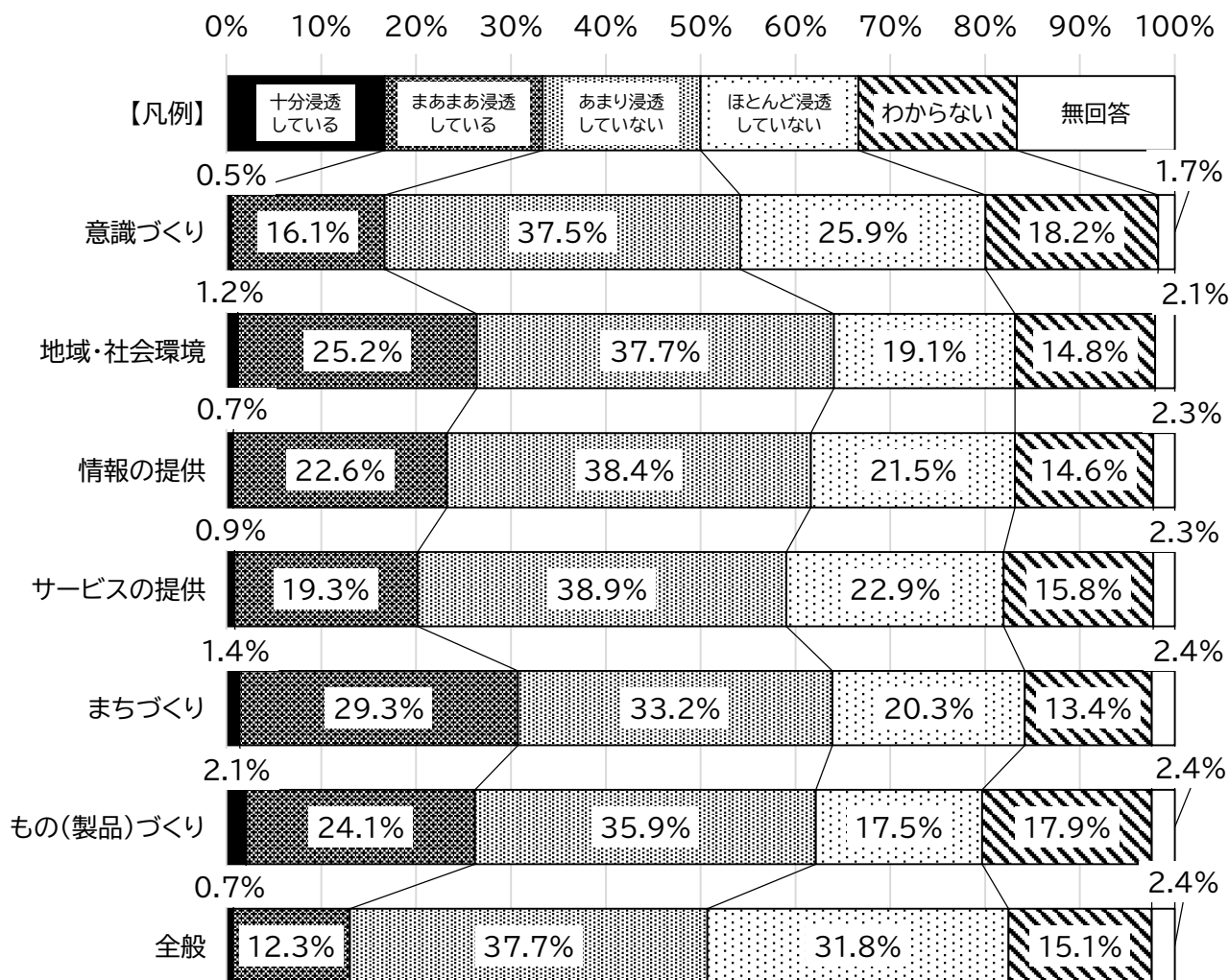


【日常生活におけるユニバーサルデザインの浸透度】

問9:あなたの日常生活の中で以下のそれぞれの分野のユニバーサルデザインやその取組が、どの程度浸透していると思いますか。

<全体>

○69.5%が「全般」で「あまり浸透していない」「ほとんど浸透していない」と回答しており、日常生活においてユニバーサルデザインはまだまだ浸透していないと感じられていることが分かります。分野別に見ると、「十分に浸透している」「まあまあ浸透している」の割合が特に低かったものは、思いやりやおもてなしのこころを育む取組、ユニバーサルデザインの必要性や重要性の意識啓発などの「意識づくり」(16.6%)、手続きの簡素化、気配りある対応などの「サービスの提供」(20.2%)の2点です。最も割合の高い施設設備、道路、公園、公共交通などのまちづくり(30.7%)に対し、「こころのユニバーサルデザイン」の浸透度が特に低く感じられていることが分かります。



第3章 調査結果の概要と分析

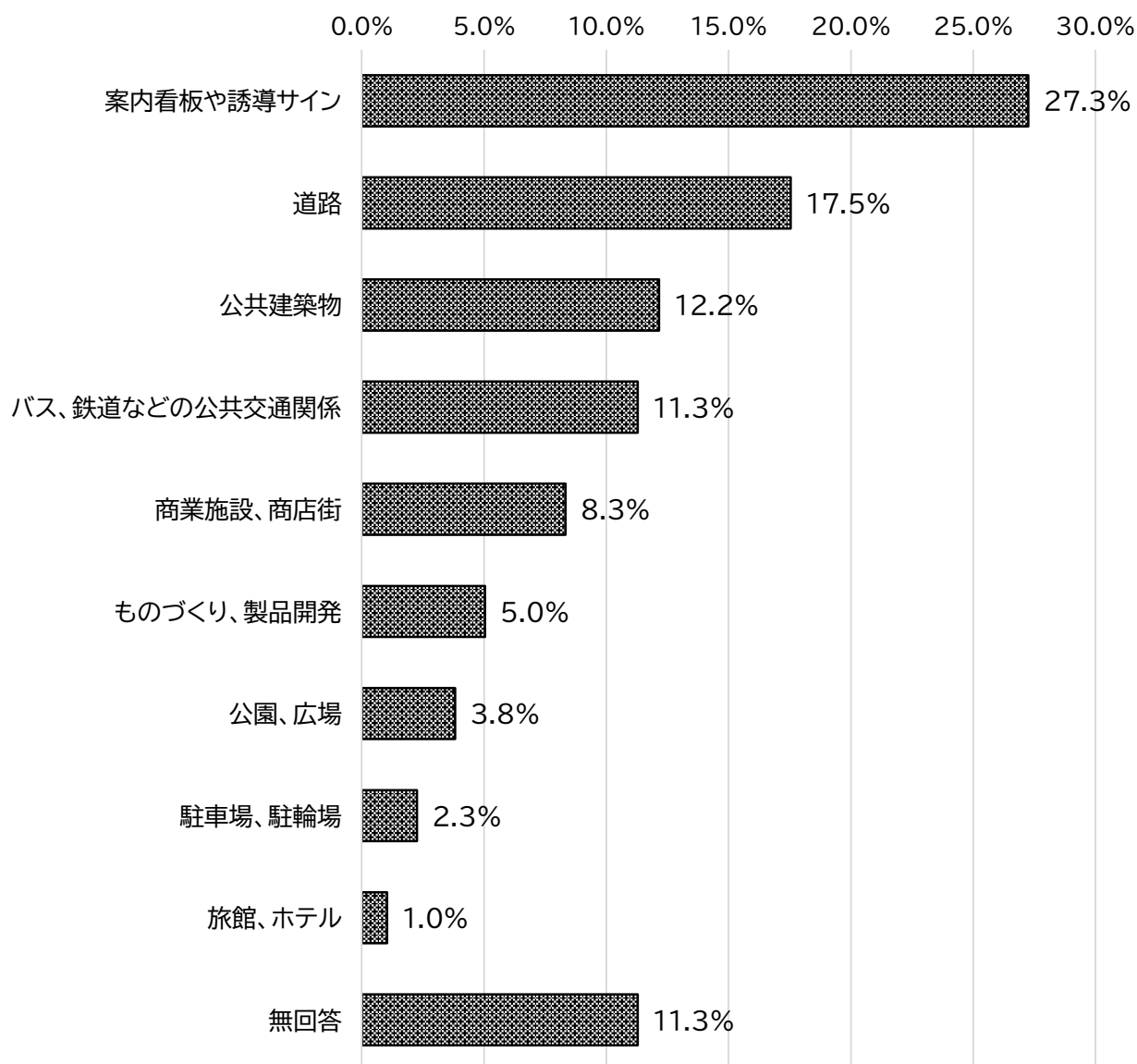
【ユニバーサルデザインの考え方を特に導入していくことが必要だと考えるもの(ハード面/ソフト面)】

問10:あなたが、ユニバーサルデザインの考え方を特に導入していくことが必要だと考えるのはどれですか。

(1)ハード面

<全体>

○全体では「案内看板や誘導サイン」の回答数が多く、次いで「道路」「公共建築物」「公共交通関係」が続く、多くの人が利用するという理由で、公共性の高いものに回答が寄せられました。



第3章 調査結果の概要と分析

<年代別>

○年代別においても、全体で多いものに回答が集中していますが、30代と60代で約11%が「商業施設や商店街」と回答しており、導入が必要と考える理由においても、公共施設よりも導入が遅れているとの意見がみられました。「道路」については、誰もが安全に利用できるよう、段差や狭い歩道の解消や点字ブロックの破損の補修を求める意見が寄せられました。

項目	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
案内看板や誘導サイン	31.8%	26.1%	26.0%	32.7%	24.8%	24.8%
道路	27.3%	13.6%	20.2%	21.2%	15.6%	12.8%
公共建築物	11.4%	14.8%	13.5%	13.3%	9.2%	11.1%
バス、鉄道などの公共交通関係	6.8%	9.1%	11.5%	9.7%	12.8%	14.5%
商業施設、商店街	4.5%	11.4%	6.7%	6.2%	11.0%	8.5%
ものづくり、製品開発	2.3%	5.7%	5.8%	8.8%	3.7%	2.6%
公園、広場	2.3%	8.0%	5.8%	0.9%	2.8%	3.4%
駐車場、駐輪場	2.3%	4.5%	4.8%	0.0%	2.8%	0.0%
旅館、ホテル	4.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
無回答	6.8%	5.7%	5.8%	7.1%	17.4%	19.7%

第3章 調査結果の概要と分析

(1-1)具体的に導入が必要と考える理由

◎案内看板や誘導サイン

年代	性別	回答
20代	男性	命に関わるような情報が誰にでも伝わるようにしなければいけないと思うから。
20代	女性	お年寄りや小さい子どもたちが分かりにくそうだから
20代	女性	災害の時など高齢者・障がい者の避難が遅れないようにするために必要
20代	男性	全年齢誰でも理解しやすくする事が重要であるとする為
20代	女性	分かりづらい時があるので導入してほしい
20代		どんな人でも正しく物事を考えられるべきだと思う為
20代		障がいのある人にとって、誘導サインがあることで安心できるから
20代	女性	よく使うものだから
30代	男性	外国の方も来られるので
30代	男性	何にでも案内がないし不安になる
30代	男性	最初の導線が一番重要だから
30代	女性	外国の方が来てすぐにわかってもらえるようにするため
30代	女性	関心を持ってもらう為には一番適しているように思う
30代	男性	災害時、最初に必要となる部分だと思います
30代	男性	案内があるとわかりやすいから
30代		直感的にわかる案内が必要だと思う
30代		普段よく行く場所こそ必要と考える
40代	女性	分からない人が案内看板などを頼りにするから
40代	男性	目につくものからスタートしていくべき
40代	男性	夜間は見えづらい
40代	女性	どこに何があるかの確かな情報がほしい。駅周辺が繁華街ではないし、どこに何があるか分かりづらい
40代	男性	誰もが知る所に案内を置くべき
40代	男性	安全などのリスクの高いものから導入するべき
40代	女性	誰もが、よく分かると思うから
40代	女性	外国人観光客などにわかりやすくする
40代	女性	色覚障がい者にとって見づらい看板がある
50代	男性	神明通り北交差点。右折ラインの表示が遅い。信号の間隔がせまいので、もっと早く表示しないと観光客はわからない
50代	女性	まずは看板などでトイレなどわかりやすくしていただくと使用しやすいと思います

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	男性	命にかかわるものだから
50代	男性	会津ナンバーの車でも平気で一方通行の道路を逆走している。まして観光地なら、明確な標識が必要なのでは？
50代	女性	一目でわかるように、看板等あれば良い
50代	女性	行動をする、起こす前として必要
50代	女性	他から来若の人たちによりよく理解してもらうため。また地元の人たちの再認識のため
50代	女性	観光客の方に安心してほしいから
50代	女性	多くの人に知ってもらう事が必要
50代	女性	もしもの時に大切なので
50代	男性	どんな人でも公平に使える為
50代	女性	4年前に会津若松に引越してきました。転勤が多いので、色々な街で暮らしますが、越してきた当初は、あまりにも看板が分かりづらく(統一性がなく、大きすぎたり小さかったり色がハゲていたり電柱に隠れていたり等)びっくりしました。車で出歩くには、分かりづらい所ばかりでした。パンフレットはたくさん置いてありますが、基本何も見なくても情報が得られれば、もっと歩きたくなる街になると思いました
50代	女性	先ず、一番多くの人が目に付くもの
50代	女性	観光客や障がい者にとって、まだまだ不親切だと思う
50代	女性	日々、無意識に見ているから
50代	男性	他所から来た時に分かりづらい物が多いから
60代	女性	公共の場所から、地域・学校・家庭と広がっていくため
60代	女性	今後の高齢者時代を生きやすくする為に必要
60代	女性	見てすぐわかる
60代	女性	災害時等、命にかかわる場合があるため
60代	男性	一番目につきやすい所に
60代	男性	子供から大人まで誰でも目にし、行動に役に立つから
60代	男性	解りづらいから
60代	男性	利用面を重視するため
70歳以上	女性	だれでもすぐ理解できる
70歳以上	女性	海外の方も観光に来られるので、みんなが見てわかりやすいものがあっていいと思う
70歳以上	女性	地理・場所を分かっている人が設置しているので、初めての方にはよく理解出来ない事が多々ある
70歳以上		高齢のため、町中が変化していて確認等に時間がかかる

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70歳以上	男性	観光客が困らないように
70歳以上	女性	年齢的に案内看板や誘導サインは見やすくわかりやすくしてほしい
70歳以上	女性	迷わず不安を感じず行動する事が出来るように
70歳以上	男性	もっとハッキリわかりやすく表示して欲しい

◎道路

年代	性別	回答
20代	女性	道が細いところはガードレール等の柵のようなものがないため、工夫すべきと考える
20代	女性	点字ブロックがないところがある
20代		道がデコボコしていると転びやすいから
20代	男性	高齢者による事故が多発しているため
20代		23才で東京から福島に移住したが、道が悪く危ないことに驚いた。公園なども整備されておらず、カラスなどもたくさんいて、とても子供を遊ばせられない。交通手段がなく、車を超高齢者が運転しているのを見て、バスの本数を増やせばバス会社も高齢者も助かるのではないかと思った
20代	男性	年齢を問わずだれでも利用するものだから
20代	男性	どこへ行くにも必ず道路を通るので、大人も子供も共通して覚えやすいと思う
20代	女性	くぼみや段差が多いため
30代	女性	誰もが使うもので使用する頻度も高いから、道路が人によっては使いにくい。外へも行きづらくなり災害時も大事
30代	女性	歩道が狭いから
30代	女性	自分の住んでいる地域は特にかもしれないが、子供を連れて歩くには道が狭い。段差が多く、歩道が少ない。道の脇が深めの用水路になっており、安心して歩けない。他県から来て特に感じた
30代	男性	事故が多いから
30代	女性	つぎはぎだらけでガタガタ、車・徒歩・ベビーカーすべて気になる
30代	女性	ベビーカーを押して散歩しているがとても歩きづらい。自転車が歩道を走っていて危ない。歩道が狭く危ない時がある
40代	男性	誰もが利用するものだから
40代	女性	狭い白線の内側の真ん中に電柱が建っていて、車道にはみ出ると車にクラクションを鳴らされる
40代	女性	老若男女、万人が利用する場であるから

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	男性	歩道の境目など、自転車で走っていても段差を感じるから
40代	女性	道路がガタガタで危険を感じる(歩行にしても自転車にしても)
40代	男性	狭い道が多く、交通弱者にとって通行が困難
40代	男性	夜は暗く、死角が多く、誰にも優しくない
40代	男性	安心して外出できる環境が必要
40代	女性	街中は段差や道幅の狭さなど歩きにくい
40代		健常者でも危険を感じる道路が多くあり、ハンディがあれば尚更ではないか
40代	女性	公共建築物等に比べ、道路は整備が遅れていると感じるため
50代	男性	誰でも使うものだから(規制などのソフト対策も併せて必要と思うが)
50代	女性	歩道の段差や高低が多すぎる
50代	男性	道路が狭い、平らでない
50代	女性	使わない日がないから。あぶない道路多いです。デコボコで狭い
50代	女性	誰でも使いやすい道路に整備してほしい。レンガの道路みたいにガタガタするのはいけない
50代		会津は古い街のせいか歩道が狭く、所によっては無い所もある。車に乗っているとヒヤッとする時が多々ある
50代	男性	普段から多くの人々が利用するものだから
50代	女性	冠水や雪の状況を考えて歩道などが作られているのは分かるが、高齢者・障がい者・幼児にとって歩き安く方向が分かる様にしたり、横断歩道が明確である必要がある
50代	女性	車いすで自由に走行できない
50代	女性	障がい者や高齢者にとって、安全とは言えない所もあるため
50代	女性	歩道が狭い。もっとわかりやすくして安全にして欲しい
50代	女性	公共交通機関よりもマイカーが日常生活のツールである当市では、歩道の無い道路、歩道があっても車椅子歩行が困難な道路(段差や狭さ等、点字ブロックなど)の様々な問題が山積みされていると感じる
60代	男性	誰でも使うから
60代	女性	私は足が不自由だが、実際に歩いてみて整備してもらいたい場所が多いので
60代	男性	高齢化が進み、雪国会津にとって一人暮らしの方々や障がいのある方には、道路(市中心の整備だけではなく、細かい所)が必要ではないのか?
60代	男性	歩道の整備、ライン引き等
60代	女性	道路は、人が歩くにしても、車が通るにしても利用面で一番大事だと思から
60代	女性	誰もが安全に利用しやすいように
60代	男性	歩道に段差、グレーチングの隙間など

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
60代	女性	広くてゆったりとした道路が少なく、狭くてでこぼこの道路が多いため、歩行者・車椅子利用者・年配者は、日常の行動が命がけになっている
60代	女性	要介護者を乗せて、車運転するのが日常なので
60代	男性	身体(車いす)・視覚障害者・高齢者等が安全に利用できるようにするため
70歳以上		一部の道路は完備されていても、町全体にはとても歩きやすいとか、安心出来る状態とは思えません
70歳以上	女性	歩く機会が多いので、歩道の整備をお願いしたい
70歳以上	男性	市民が多く利用するから
70歳以上	女性	駅前の主周辺道路、信号機の設置、配備等問題あり
70歳以上		交通事故や救急搬送など命にかかわるから
70歳以上	女性	外出する時は歩いている。一番身近に感じ安全な道路であってほしいと思います
70歳以上	女性	市の道路はせまく、歩道のないところもあるので
70歳以上	男性	狭く危ない。特に除雪車が入らない道
70歳以上	男性	歩行者・自転車用道路が十分に整備できていない

◎公共建築物

年代	性別	回答
20代	男性	外国人が一番困るところだと思います
20代	男性	たくさんの方が高頻度利用するため
20代	女性	誰もが利用する施設だから
30代	男性	車椅子ユーザーからすると、車椅子が通れるか、行けるか(スロープ・エレベーター)など車椅子ありきの行動のため、対応していない場所だと制限されてしまうから
30代		多様な利用者を受け入れるため
30代	女性	全ての方が利用する場所なので
30代	女性	誰もが利用する場所だから
30代	男性	みんなが使うものだから
30代	女性	老若男女どの人にでもわかりやすく、使いやすく、不特定多数の人が出入りする公共建築物だから
30代	女性	一番人の集まる所
30代		全員が使うものだから
30代	男性	市民の誰もが利用する機会があるため

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	男性	役所などは、合同庁舎がいくつかあり不便。一つにまとめると手間が省ける
40代	女性	全ての市民に関係する施設で、大概の市民は日常生活の中で長期にわたって利用するため
40代	男性	役所が手本を見せることが必要
40代	女性	誰もが利用する機会がある為
40代	男性	市の姿勢が観光振興偏重で、もっと社会的弱者に手を差伸べるべきと考えるから
40代	男性	災害時の避難などは近年でも多く、コロナの影響もあり更に必要な事だと思う
40代	女性	皆が訪れる頻度の高い所に必要だと思う
50代	男性	古い施設が多く、対応が進んでいない
50代	男性	どんな人でも使用するときには不便さを感じない施設であるべきだから
50代	男性	多く利用すると考えるから
50代	女性	誰もが使用する機会があるので対応の必要がある
50代	男性	多くの人たちが利用するから
50代	女性	国内外の方々が来られる所だと思うから
50代	女性	すべての人が利用する機会があるため
50代		障がいのある方が利用しやすい設備が不足している
60代	女性	身体の不自由な方も利用しやすいように
60代	女性	新築の場合だけでなく、既存施設でのユニバーサルデザインに配慮した整備・補修が必要。公民館を利用した時に古さ・不便さ等を感じる。(多目的トイレ・エレベーターがあれば高齢者が利用しやすい)
60代	男性	古い建物は昔のままのことが多く、利用しにくいものが多い
60代	女性	まずは公共建築物から、お手本を示すという意味で
60代	女性	災害時の避難所として、楽しく・便利に生活するために
70歳以上	男性	多くの方が日常利用しているから
70歳以上	女性	まず、お手本を示してもらいたい
70歳以上	男性	多くの方が自由に立ち入り出来て、よく目に付くから
70歳以上	女性	エレベーター等の完全設置
70歳以上	女性	子どもや大人等、誰もが使いやすいように手すりの高さを2段型にする

第3章 調査結果の概要と分析

◎バス、鉄道などの公共交通関係

年代	性別	回答
20代	男性	さまざまな人が利用する(県内外、国内外含め)から
20代	女性	全ての人にとって重要な移動手段に、障がい者や健常者の間で使いやすさに差があってはいけないと思ったから。もし自分が障がい者だったら、今の公共交通機関に段差や振動などの点で、最も使いにくさを感じるのではないかと感じたから
30代	男性	目的地への行き方がわかりづらいことがある
30代	女性	外国からの観光客などは、特にバスに乗る際、言葉の面で大変なのではと思います
30代	男性	今後、高齢者が増え、自分で運転できない人が増える
30代	男性	不特定多数の利用者がいるため
40代	女性	オリンピック選手や観光客が利用しやすいように(自家用車でくる人は看板やナビで大丈夫そう)
40代	女性	外国人に聞かれた時、私が見ても見づらく説明が難しかったから
40代	女性	公共交通関係に関しては特にそう思います。バスや電車は、障害者の人にとってとても利用しにくい
40代	男性	子供から大人まで全ての方が利用しやすいことが公共交通関係において必要と考える
50代	男性	生活していく中で、一番必要だと思う
50代	女性	運転出来ない方の移動手段であり、行動範囲が広がる(道路含む)
50代	女性	身体障がい者用のオムツ交換場所が皆無。ドライブ等へは連れて行くのを諦めて居ります(特に NEXCO 高速サービスエリアに思慮して欲しいと思っています。会津一円にもあったら良いですね)
50代	男性	免許及び車を保有していない者にとっては移動が大変
60代	女性	高齢化に伴い、公共交通機関の充実が特に必要と思われる
60代		高齢化により公共交通手段が重要になってくる
60代	男性	必要不可欠な物で、優先するべき事なので(使用頻度が高い)
60代	男性	公共の交通を便利にしてほしいから
60代	男性	運転免許証返納後の交通機関の充実
60代	女性	会津は広いので、車がないと不便。車の無い人の為に
60代	女性	全ての人々が安心して迷わずに利用できる表示や座席は工夫してほしい(車椅子や盲導犬のスペース)
60代	男性	バス路線の案内がよくわからない
70歳以上	女性	高齢者の事故を減少させる為にも公共交通がしっかりとした体制を必要とするから
70歳以上	男性	バス・鉄道など、公共関係を充分に利用出来るように配慮すべきである

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70歳以上	男性	市内移動にバスを利用したいが、分かりづらく、どのコースに乗れば良いかわからない
70歳以上	男性	高齢で、自動車運転免許証返納が近いため
70歳以上	女性	高齢になり、誰もが使う
70歳以上	女性	公共交通が整備されることにより、外出しやすくなる
70歳以上	女性	バスの乗り降り、階段が高いので必要に応じて低くなったら良いかと思えます（雪国なので自動的になる様に）
70歳以上	女性	運転免許を返納しても、高齢者が外に楽に出れる様にする為、利用しやすい工夫など

◎商業施設、商店街

年代	性別	回答
20代	女性	例えば、聴力に障がいのある方や目に障がいのある方へのわかりやすいようなつくりなどあればよさそうだなと思った。（盲導犬が入りやすい環境をふやすなど）
30代	女性	ユーザーが増えるといいから
30代	女性	会津はまだまだユニバーサルデザインには遠い。段差、幅（ゆとりのある）、少しの坂など
30代	女性	幅広い年齢層の方々が利用するから
40代	女性	情報のわかりやすさ
50代	女性	皆が行きそうな場所だから
50代	女性	公共の場・物等では、わかりやすく案内等もあるが、民間ではまだ導入に差があるように感じるため
60代		経営規模により差が出易い仕組みになっているのでは？
60代	女性	新しい施設は取り組んでいるが、昔からの施設はまだまだ普及していない
60代	男性	人が多く集まる場所で必要と考える
60代		人口が減っている中、商業施設・商店街でユニバーサルデザインを完璧にやれば、それを売りにして住みよい市になると思う
60代	女性	一番利用する場所なので
70歳以上	男性	高齢者が楽しく買物等ができるように
70歳以上	男性	誰でもが利用する場所
70歳以上	男性	車イスの買物で、高い場所の商品が取りにくい。案内が分かりにくい事がある
70歳以上	男性	自ら利用する時に、安心・安全であってほしいから

第3章 調査結果の概要と分析

◎ものづくり、製品開発

年代	性別	回答
30代	男性	老若男女が最も身近に日常的に使うものだから
30代	女性	仕事柄ものづくり・製品開発に携わっている為
40代		誰にでも扱いやすい様に
40代		実用できる製品が増えると、認知度が上がると思ったから
50代	女性	資金的にもすぐにはじめられて結果がでると思う
60代	男性	ものづくりからスタートする事で全体に広がる
60代	女性	誰でもどの年代にも対応し、便利性的な製品やわかりやすい内容のものづくりが進められていないように思う
60代	男性	最初から区別されている製品も多い
70歳以上	男性	あまり見聞きしないから
70歳以上	男性	全てのものづくりに取り入れる必要がある

◎公園、広場

年代	性別	回答
20代	男性	誰でも利用できるから
30代	男性	子供がおり、よく行く場所でもあるので
30代	女性	子どもから高齢者まで利用する公園なので、例えば多目的トイレがあればと思ったことがあったため
30代	女性	子どもがよく利用する所だから
60代	女性	のんびりしやすい

◎駐車場、駐輪場

年代	性別	回答
20代	男性	駐車場等はずっと整備すべきだと思う
30代		停まりにくい
30代	女性	誰もが利用しやすいつくりにした方が良い
40代	女性	危険な場所がより安全になれば良いから
40代	女性	駅周辺の駐輪場の整備(立体・置き方の工夫など)をすることで防犯にもなると思うから

第3章 調査結果の概要と分析

◎旅館、ホテル

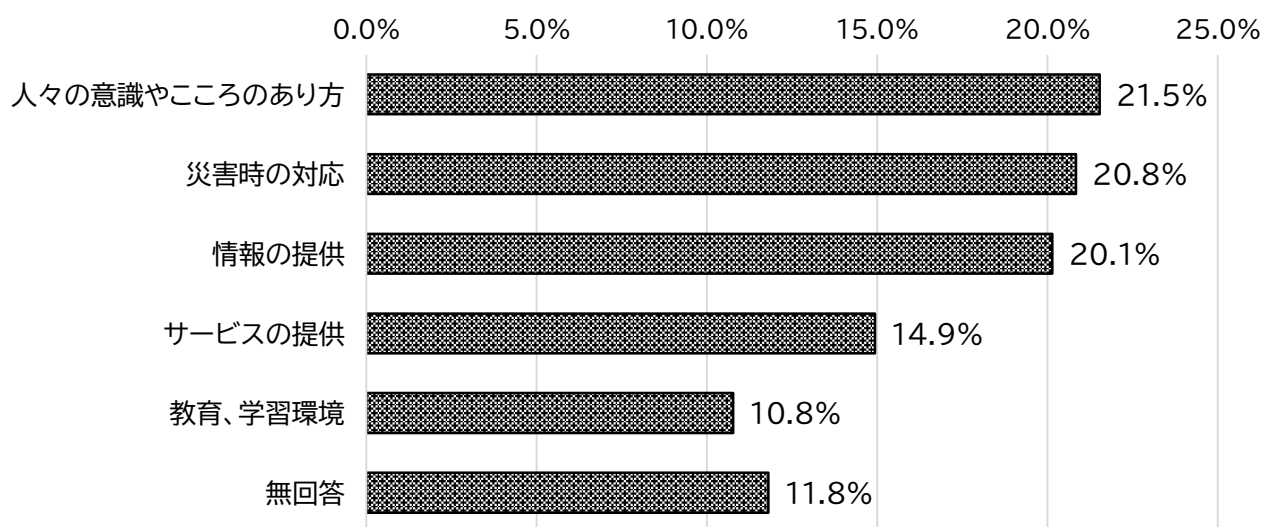
年代	性別	回答
20代	女性	日本人に限らず世界中の方が訪れ、その人の衣食住を預かる施設だから
70歳以上	男性	外国人に解りやすい表示が必要

第3章 調査結果の概要と分析

(2)ソフト面

<全体>

○全体では「人々の意識やこころのあり方」が最も多く、「災害時の対応」「情報の提供」が続きますが、その差は僅かです。人々の意識やこころのあり方に導入が必要と考える理由は、偏見や差別がなくなれば意味がない、ユニバーサルデザインの意味や重要性を理解し意識を変えなければならないという回答が多く、「こころのユニバーサルデザイン」の認識が広がっていると考えられます。「情報の提供」では、災害時における情報の得やすさや分かりやすさを求める意見が多く、【ハード面】における「案内看板や誘導サイン」の回答数と密接に関係していると推測されます。



<年代別>

○年代別でも上記に回答が集中しており、30代では「サービスの提供」の回答も多くありました。

項目	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
人々の意識やこころのあり方	20.5%	20.5%	23.1%	24.8%	20.2%	19.7%
災害時の対応	20.5%	22.7%	14.4%	20.4%	22.0%	24.8%
情報の提供	25.0%	14.8%	23.1%	22.1%	19.3%	18.8%
サービスの提供	15.9%	21.6%	18.3%	15.0%	14.7%	6.8%
教育、学習環境	9.1%	15.9%	16.3%	11.5%	3.7%	8.5%
無回答	9.1%	4.5%	4.8%	6.2%	20.2%	21.4%

第3章 調査結果の概要と分析

(2-1)具体的に導入が必要と考える理由

◎人々の意識やこころのあり方

年代	性別	回答
20代	女性	たくさんの方が理解し、重要性を知らなければ普及に繋がらないから
20代		深層心理にはまだ差別の意識がある
20代	女性	全ての人々に思いやりや助け合いの精神が育てば、より暮らしやすい社会になると思うから
20代	男性	どんなにサービスや情報を提供しても、人々の意識が変わらなければ、あまり意味をなさないと思うから。提供する側も提供される側も、1人1人の意識が大切だと思う
20代	男性	意識やこころのあり方の中に、教育や学習環境が含まれると思うので、まず人々への周知が必要だと感じる
20代		サービスや情報も大切だが、一番は皆が助け合うという気持ち
30代	女性	人々の意識が変わらなければ何の意味もないから
30代	男性	普段、意識から外れがちなことだから
30代	男性	ユニバーサルデザインを今回より深く知ることができた。普段から心がけていないと、その場で対応できないのではと思う
30代	女性	自分本位の意識をやめ、もっと広い視野で感じ、考える事ができたら、多くの人との心のつながりができるのではないかと
30代	女性	意識が変われば、他のソフト面にも波及する
30代	女性	ハード面ばかりにこだわっている場面を多々見てきたため
30代	女性	一人一人、思いやりをもつことで暮らしやすいまちができればと思ったから
30代	女性	人としての心づかいが大切だと思うから
30代	男性	ハードが良くても、使う人の気持ち・理解がなければハードを活用できない
30代	男性	この世界はいろいろな人が生きているということを意識して、思いやりの心を持って生きることがとても大切だと思っているから
30代	男性	本当の意味では、市民の多くの人々に共有意識がないと、よりよい町づくりに発展しないから
40代	女性	意識がないと何も進まないから
40代	男性	必要性を理解しないと普及しない
40代	男性	まだまだ多くの人々の意識が低いと思う
40代	女性	まずはユニバーサルデザインの意味を理解し、取り組もうとすることが必要だと思う
40代	女性	まずは意識から始まるものだと思います
40代	女性	どれだけの市民が意識しているかということの方が大事だと思うから
40代		知ることが必要だと思います

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代		ユニバーサルデザインが市民に浸透しているとは思えないため
40代		平等と思いやりが必要
40代	女性	基本となるものだから
40代	女性	ユニバーサルデザインの本来の意味を理解し、具体的にハード面に落としていく必要がある。形だけでは意味がない
50代	男性	自己の価値観を押し付けず、他者を尊重する意識が必要だと思う
50代	男性	根幹にあるものだから。これがあれば、他の選択肢はカバーできる
50代	女性	みんながやさしい気持ちで困っている人に手をさしのべられるように、ユニバーサルデザインについて地区で話す機会があるとよいと思います
50代	女性	「誰もが」と考えるのならば、それぞれの意識が大事
50代	女性	まずは教育を通して意識を高め、知ってもらうことにより、必要なものに気づいていくのではないか
50代	女性	情報提供するにしても一部の方のみ。興味のない方でも関心が持てる様にするべき。そこから理解が始まると思う
50代	女性	すべての人が平等であるためには知識と理解が必要
50代	女性	支え合う心は大切、良くも悪くもいつか自分に返ってくる
50代	女性	ソフト面の充実なくしては、何をしても上手くいかず、様々な方が笑顔になれないと考えるため
50代	女性	ハード面が整備されたとしても、人々の意識やこころのあり方が大切な事だと思う
60代	男性	バリアフリー化への認識共有が必要。できない方との認識共有を進めるべき
60代	女性	一人ひとりのつながりが大切。市民全体に思いやりのある心を持たせる必要性があると思います
60代	男性	○か×という意識がまだあるように思う
60代	女性	全ての根幹だから
60代	女性	周りの人への思いやりが必要である
60代	女性	すべての人のために多様な価値観を受け入れ、相手に対する理解・思いやりのある心があればユニバーサルデザインの取り組みが進められる。ユニバーサルデザインを学ぶ機会がもっと必要
60代	女性	すべての基本である
60代	女性	ハードを補えるのは人々の心だと思う
70歳以上	男性	まだまだ偏見があるから
70歳以上	女性	思いやりが大切
70歳以上	男性	お互いに助け合う、思いやりの心を大切に
70歳以上	女性	本人の立場に立たないと、理解したつもりでも全く理解していない事が多い。分かったつもりになってしまう

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70歳以上	女性	お互い助け合う気持ちが大事だと思う
70歳以上	女性	やはり大切なのは心の持ち方であるから
70歳以上	女性	人を思いやる気持ちが大切
70歳以上	男性	思いやり、気配りの啓発が必要

◎災害時の対応

年代	性別	回答
20代	男性	誰もが命を守るための行動が取れるような環境を整えておく必要があると考えるから
20代	男性	住んでる人だけでなく、来訪者へも分かるようにしないといけない
20代	女性	今後、災害が起きることもあると思うため
20代	女性	災害はみんな初めての経験になることが多いから
20代	男性	最近災害が多いため
20代	女性	普通に生活している時よりも、災害時のような余裕のない時に必要だと思う
30代	女性	ほとんどの日本の避難所は床上に何かを敷いて過ごしていますので、高齢者や要介護者・障害者の方々は特に大変だと思います。外国、とくにイタリアは避難所の法律や設備が、人が過ごしやすいように考えられていて、うらやましく思いました
30代		災害対応に必要だと思われるから
30代	女性	緊急時にこそ必要だから
30代	女性	近年、未曾有の自然災害が日本中で起きていて、実際にこの地域で起こってしまった場合への不安が大きいから
30代	男性	災害時は重要である
30代	女性	子どもが小さく、災害が多いので
30代	男性	災害時のときこそ必要なものと思う
30代	女性	緊急時に誰もが行動しやすいように
30代	女性	県外からの移住者にも分かりやすくしてほしい
30代	女性	いざという時の避難場所が分からないかもしれない。高齢者や車がない人への対応が大切だと思う
40代	女性	いつどこで起きても、平等に支援を受けられるように
40代	女性	本当の緊急時にわかりやすいものがないとパニックになると思う
40代	男性	命に係わる事こそ必要
40代	女性	いつ災害が起こるか分からないので、命を守るために優先しなければならない
50代	男性	命にかかわるものだから

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	女性	急な時ほど、わかりやすい表示等が必要
50代	女性	非常時こそわかりやすさが重要だと思うから
50代	女性	もしもの時に大切なので
50代	女性	災害時の避難所や対応は、まだまだ不十分な点が多い(プライバシーや、車いす、認知症の方に対して)
50代	女性	日頃から目のつく所に、避難所までの誘導の案内や目印が欲しい。記憶に残り行動できる
50代	男性	いざという時必要
60代	女性	近所に話し合える人がいない。大雨・強風・高温等不安
60代	男性	市民それぞれの助け合いが必要
60代	女性	地区ごとに避難場所は決められていると思うが、もう少し詳しく表示してもらいたい
70歳以上		ハザードマップは全世帯に渡っているとしても、それを地域で理解を深め合うことなどが重要
70歳以上	女性	災害時はパニックになりやすいので、障がい者や高齢者が動きやすいように対応する必要がある
70歳以上	男性	身体的に災害が起きた時に心配があるから
70歳以上		人命にかかわることだから
70歳以上	男性	住民や来訪者が困らないため
70歳以上	男性	避難マップをもっとわかりやすくする。災害種類別や、時間帯、障がい者、高齢者向け、情報を受け取る方法(情報の受信手段のない人)など
70歳以上	女性	体育館など避難所に指定されている施設は、要介護者の方々が避難する場として適していません。安心して避難できる環境とするためユニバーサルデザインを進めるが必要となります

◎情報の提供

年代	性別	回答
20代	女性	情報の提供がうまくいけば、より良くなると思うから
20代	男性	誤った理解で思わぬ事態が起こる可能性があると思うので、それを防ぐため
20代	男性	必要な時に情報が必要だと思う
20代	女性	情報がスムーズに必要とされる方に入ればもっと生活しやすくなると思う
30代	男性	誰もがわかりやすい情報であることが重要
30代	男性	あまり知られていないように思えるから

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	女性	全ての人を知って理解でき、実践することが大切だが、まず、市全体での取り組みなどの情報提供が必要
30代		情報をわかりやすく伝えてもらいたい
40代	男性	生命の危機に関係する場合がある
40代	女性	暮らしやすい社会・暮らしやすい地方都市を築き上げるためには、住民の意思を良い方向にもっていきべきであり、その情報をどう発信するべきか、方法は何かということになる。やはりテレビが一番であると考えている。やはり皆テレビを見ている(高年齢層は特に)
40代	女性	伝わりにくいから
40代	女性	特に年配の方には、インターネットを利用したサービスは普及していない
40代	女性	みんなにもっと知ってもらうため
50代	女性	様々なイベント情報を知らせる手段を分かりやすくしてほしい
50代	女性	市役所手続きの様式でダウンロード可能なものをホームページにアップしてほしい。手続きのたびに用紙をもらうか、その場で書き込まなければならない、時間を取られてしまう
50代	男性	会津の産業の発展のため
50代	女性	PCや携帯を使いこなせない方も多いから
50代	男性	世代間で情報格差があると感じる。特に近年の災害時
50代	男性	全ての人たちがわかりやすく、平等に情報を得ることが大切だと考えるから
50代	男性	あまり情報がつたわっていないと感じるから
60代	女性	高齢者にも分かりやすくして欲しいから
60代	男性	何事もIT化された社会ではありますが、取り残されているのが高齢世帯だと思われれます。若い方がいる家庭は別だと思いますが、行政からの心配りの必要のある家庭がとて多いと感じます
60代	女性	情報がとどかないと感じるため
70歳以上	女性	情報の提供は行っていると思われれますが、個々人に理解されているか疑問
70歳以上	男性	行動する際の選択肢としたいため

第3章 調査結果の概要と分析

◎サービスの提供

年代	性別	回答
20代	男性	難しくてサービスを受けられない外国人がいます
20代		観光客や市民が望むものだと思うため
30代	女性	より多くの方に知って(利用)してもらえればいいと思うから
30代	女性	どんな人でも受けられるサービスこそ、導入すれば皆が豊かになるのではと思ったから
30代	男性	不特定多数の利用者がいるため
40代	女性	観光地である会津は多様な人が集まるため、常に新しい価値観でのサービスを提供しなければいけないと思います
40代	女性	サービスをもっと考えてもらいたい
40代	女性	行政福祉は PR が少ない。市民生活に役に立つお知らせ(サービス)情報を発信してほしい。自己申告は時代遅れだと思います
50代	女性	リスクに応じたマネジメントを含む地域であったら嬉しいですね。特に道路事情など見直せたら、有難いです。(例)自転車専用、車歩分離信号など。車椅子で利用しやすい店があったら良いと思います
50代	男性	観光業を主としている都市では一番必要であるから
60代	男性	ベースを考える事で認知される
60代	女性	簡単に情報収集でき、迅速にサービスを受けられる事ができたら安心できる
60代	男性	誰もが簡単にできる。又はわかりやすいやり方
60代		絵や記号でもっとわかりやすく
60代		サービスの向上により、まず初めの一步として、ユニバーサルデザインの考え方がより良い方向に向かっていくと思います
60代	女性	わかりやすく提示→情報が届きやすい工夫
70歳以上	男性	すべての人がよりよいサービスを受けられるよう

第3章 調査結果の概要と分析

◎教育、学習環境

年代	性別	回答
20代	男性	教育に取り入れることでより多くの人にユニバーサルデザインの考え方に触れる機会が増え、興味・関心をもちやすくなると思ったから
20代	女性	学生のうちから知識を付けておくことで気付く事もある
30代	女性	小さい頃からこういう事を考え、学んで当たり前の中にしていけば、大人になっても意識し、思いやりのある行動が出来るのではないだろうか
30代	男性	子どもの時から教えることが浸透に繋がる。子どもの知己の教育が大切
30代	女性	まずはどんな考えなのかを浸透させる必要がある
30代	男性	幼少期からの教育が必要だと思うから
30代	男性	教育の場で必要あると思う
40代	男性	新しいことは早いうちから進めるべき
40代	女性	子どもの頃から、ユニバーサルデザインの考えに触れれば、もっと広まると思う
40代	女性	教育の中での考え方を定着させていければいいと思います。自然と身近な考え方になると思います
40代	男性	教育を通して浸透させていくことが大切と考える
40代	女性	子どもの頃からの意識づけが重要だと思うから
40代	女性	色覚障害の子どもを持っていますが、先生方にももっと勉強してもらいたい。そのような子に対応する色づかい等、プリントなどはうすくて見えづらい
50代	男性	学校教育でしっかり教えることができれば、社会に出てからもどんな人にもやさしく対応できる
50代	男性	子供に言われると大人も変わる
50代	男性	人生100年時代においては、40・60・80代でも学び続けられるユニバーサル教育・学習環境が必要だと思われる
60代	女性	子どもの頃から知ることが大切
60代	男性	学校教育の場であれば、小さいうちから身に付く
70歳以上	男性	まずは教育を通して意識を高める
70歳以上	男性	日常的な学習が必要
70歳以上	女性	子供のときから意識をもたせるようにしてほしい
70歳以上	女性	大切な事を基礎から学ぶのは大事

2. 「こころのユニバーサルデザイン」について(問 11~16)

【障がいのある方等の困っている人への手助け】

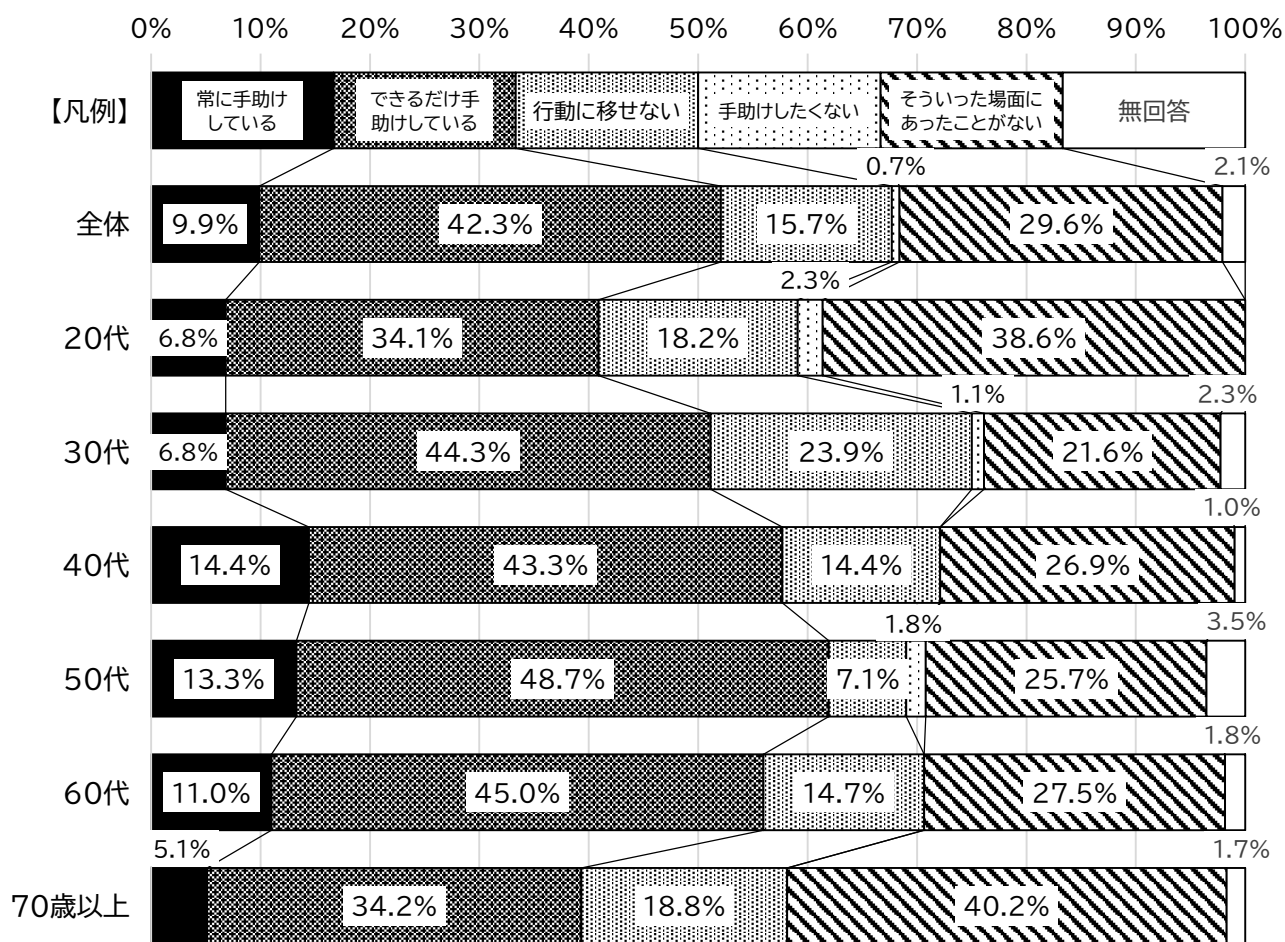
問11:あなたは、車いすの方が段差で進めなくなっていたり、視覚や聴覚に障がいのある方が、迷っていたりした場合、手助けしていますか。

<全体>

○全体では、約半数が「常に手助けしている」「できるだけ手助けしている」と回答しているものの、16.4%の人が「手助けしたいと思っているが、行動に移すことができない」「手助けしたくない」と回答しています。

<年代別>

○「常に手助けしている」「できるだけ手助けしている」との回答は、20代と70歳以上では約4割に止まっており、他の世代と比較してやや低い傾向にあります。



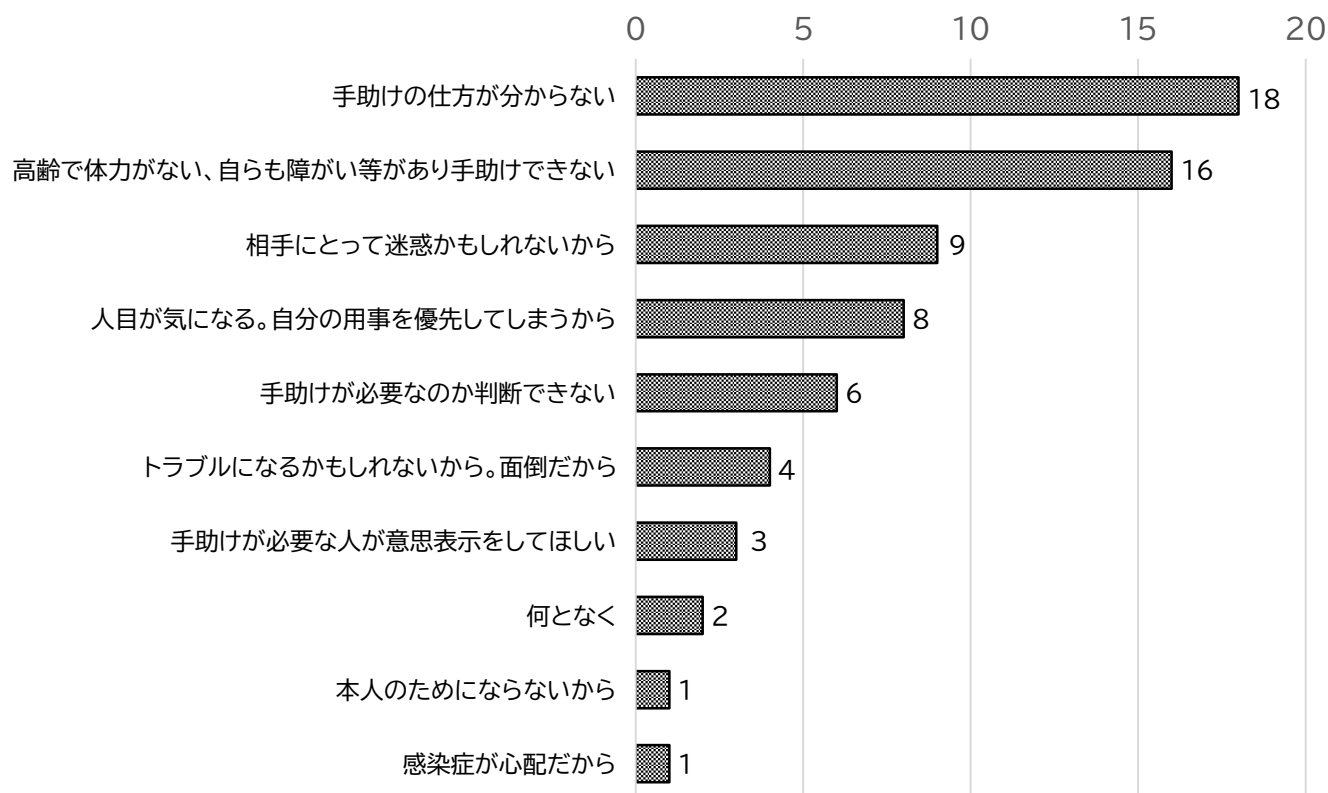
【困っている人への手助けができない、またはしたくないと思う理由】

問11-1:問11で「3 手助けしたいと思っているが、行動に移すことができない」、「4 手助けしたくない」と回答した方に伺います。その理由を教えてください。(自由記載)

<全体>

○「手助けの仕方が分からない」「高齢で体力がない、自らも障がい等があり手助けできない」という理由が最も多く、「相手にとって迷惑かもしれない」「手助けが必要なのか判断できない」「手助けが必要か意思表示をしてほしい」といった、相手の状況が分からないことが原因の回答もみられたことから、相手に対し思いやりのある行動を取ることでできない理由の多くが多様な人々への理解不足によるものであることが伺えます。

(単位:人)



第3章 調査結果の概要と分析

【困っている人への声のかけ方や手助けの仕方】

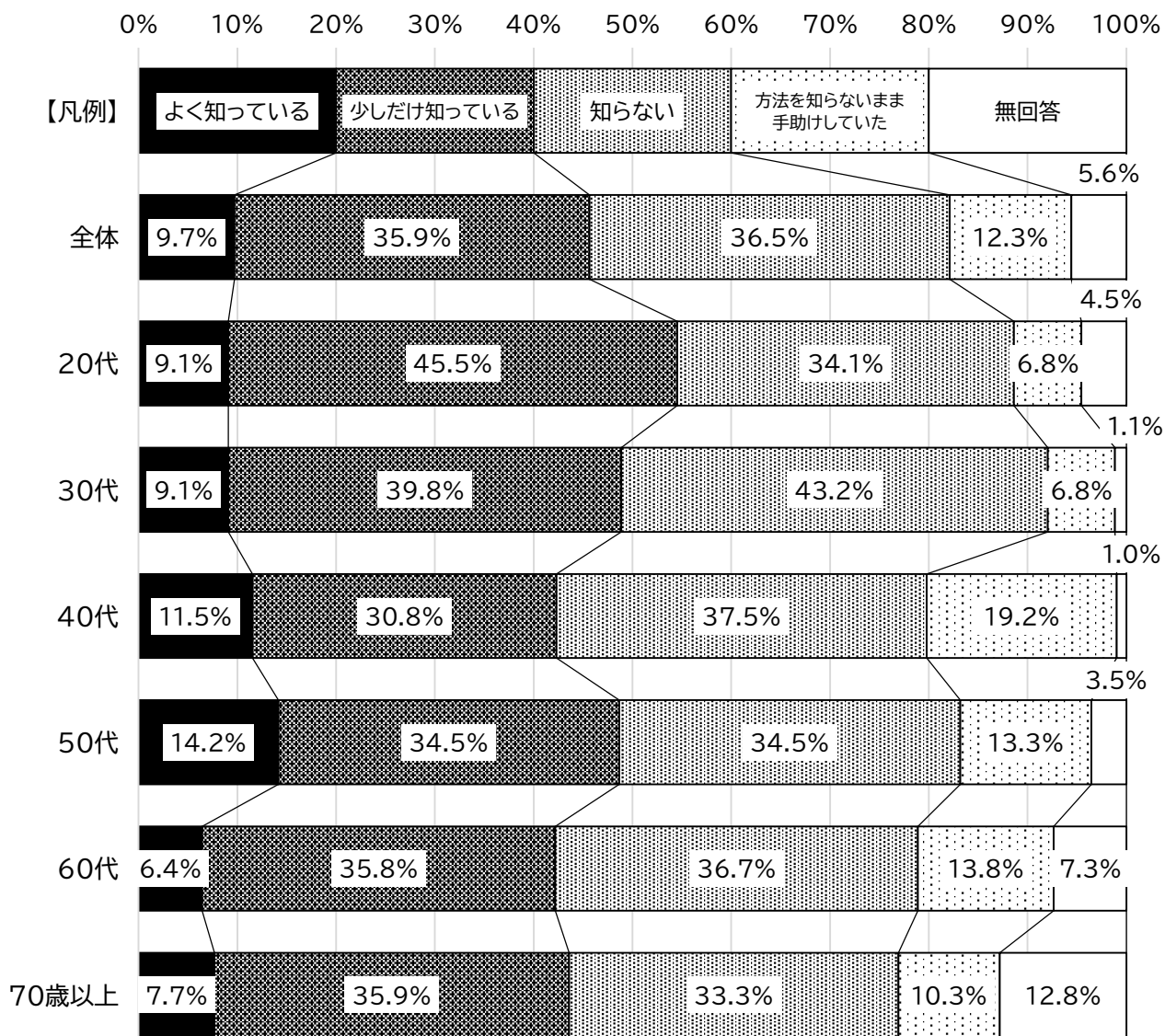
問12:こうした困っている状況の方への声のかけかたや手助けの仕方を知っていますか。

<全体>

○全体では、45.6%が「よく知っている」「少しだけ知っている」と回答しており、「知らない」「相手の望む方法を知らないまま手助けしていた」との回答が48.8%であり、半々の割合となっています。

<年代別>

○20代においては「よく知っている」「少しだけ知っている」の割合が50%を超えており、他の世代と比較してやや高くなっており、学校教育の中で手助けの方法を学ぶ機会があったものと推測されます。



第3章 調査結果の概要と分析

【「障害者差別解消法」の認知度・理解度】

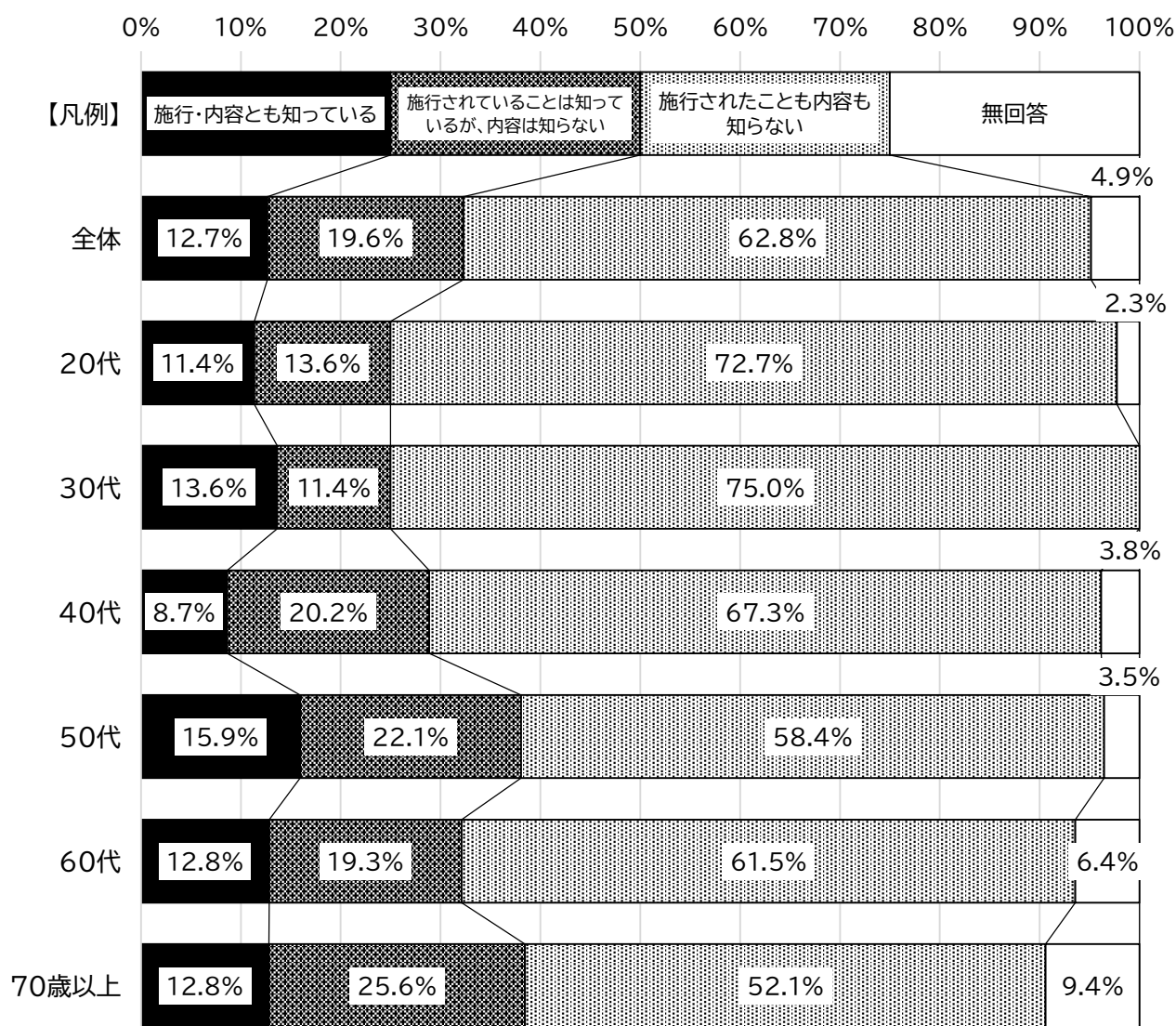
問13:あなたは、障がいのある方への「合理的配慮」などが求められる「障害者差別解消法」についてご存知ですか。

<全体>

○全体の62.8%が「施行されたことも内容も知らない」と回答しており、十分に認知されていないことが明らかとなりました。

<年代別>

○年代別においては、20代・30代は70%以上が「施行されたことも内容も知らない」と回答しており、若い世代における認知度が特に低くなっています。

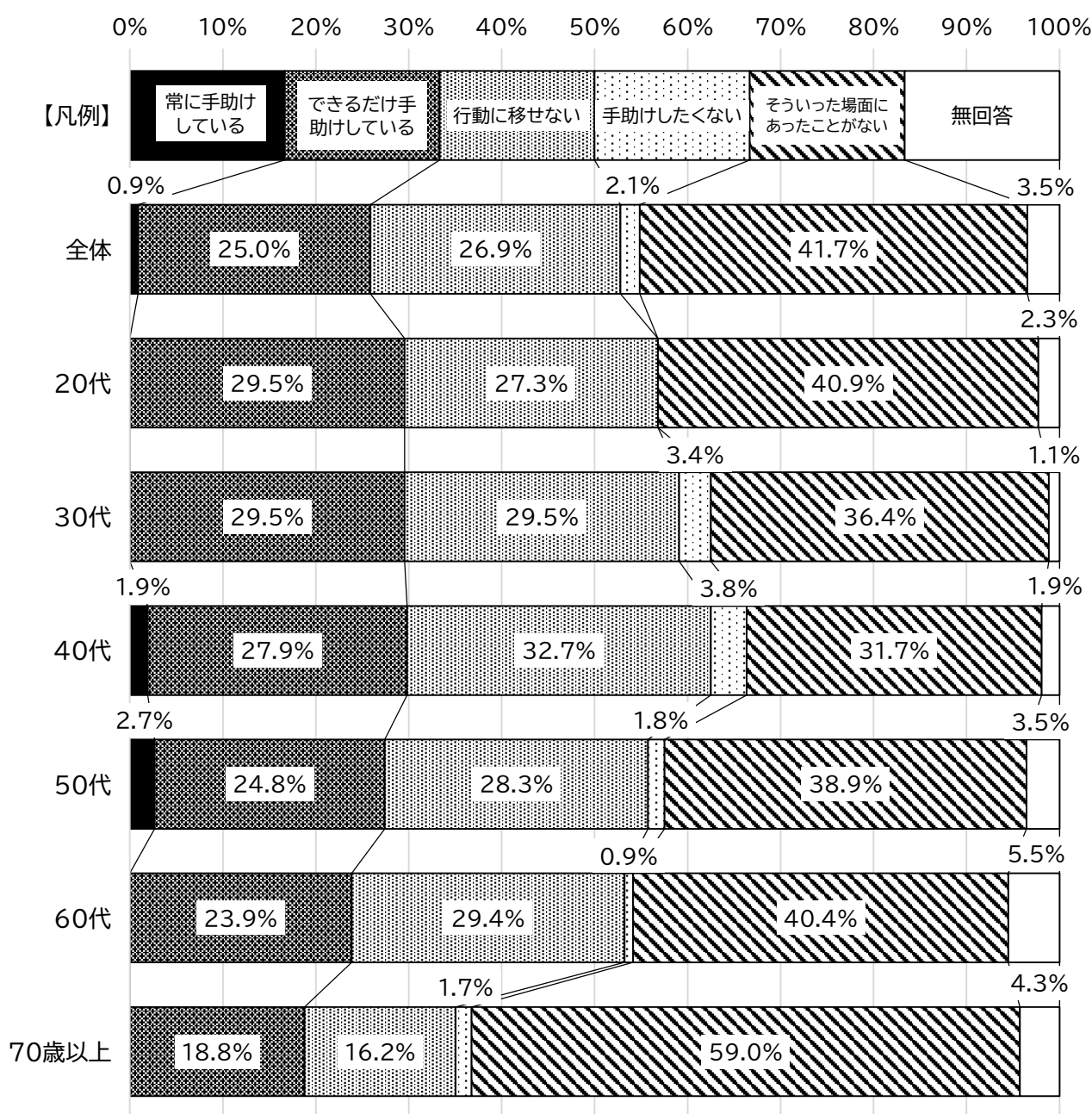


【外国の方への手助け】

問14:あなたは、外国の方が道や駅などで迷っていたりした場合、声をかけて手助けしていますか。

<全体・年代別>

○全体で、25.9%が「手助けしている」「できるだけ手助けしている」と回答しており、「手助けしたいと思っているが、行動に移せない」との回答26.9%とほぼ同率となっています。年代別においても、ほぼ同様の傾向が見られます。



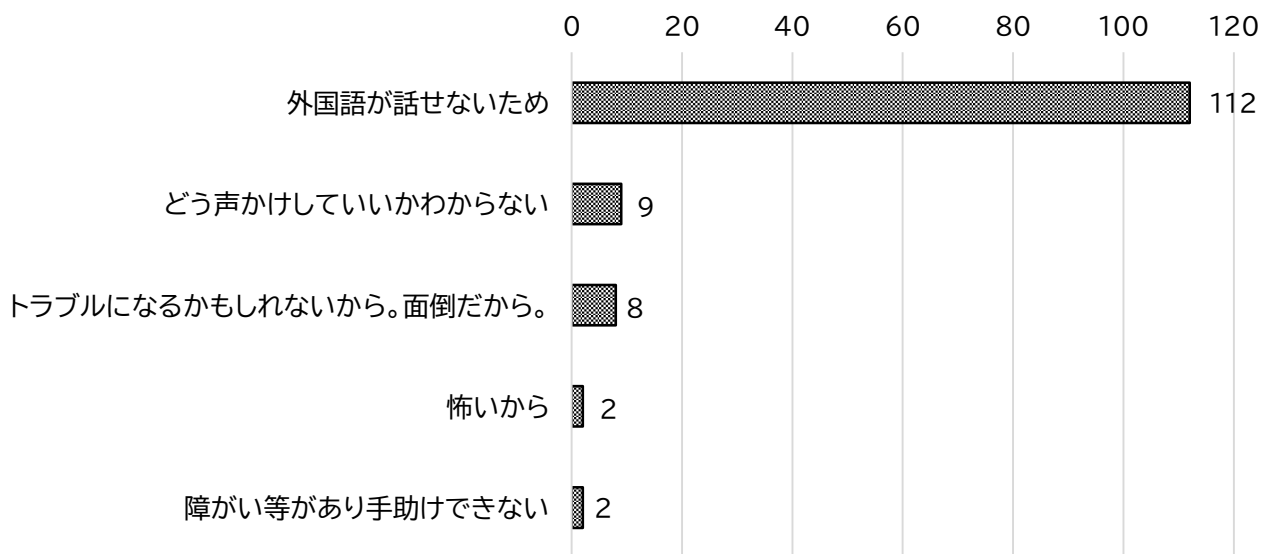
【外国の方への手助けができない、またはしたくないと思う理由】

問14-1:問 14 で「3 手助けしたいと思っているが、行動に移すことができない」、「4 手助けしたくない」と回答した方に伺います。その理由を教えてください。

<全体>

○「外国語が話せない」という言葉の壁による理由が圧倒的に多く、「トラブルになるかもしれない」「怖い」といった外国人への理解不足による回答も見られました。

(単位:人)



第3章 調査結果の概要と分析

【「ヘルプマーク」の認知度・理解度】

問15:あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。

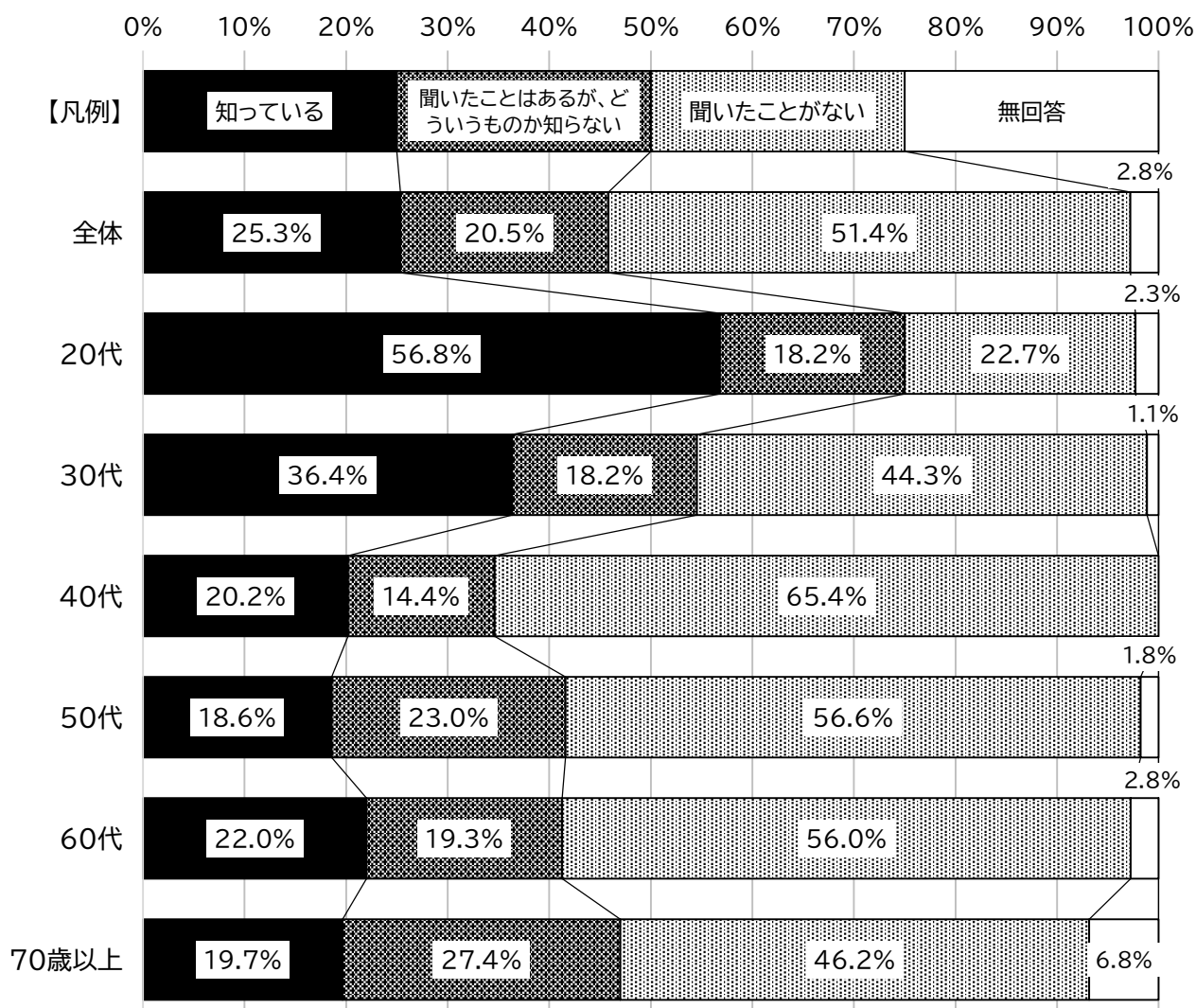


<全体>

○全体では45.8%が「知っている」「聞いたことはあるが、どういうものか知らない」と回答しており、「聞いたことがない」との回答51.4%と半々の割合となっています。

<年代別>

○「知っている」「聞いたことはあるが、どういうものか知らない」と回答したうち20代が最も多く75.0%、30代が54.6%と続き若い世代で認知度が高いことから、学校教育による影響が考えられます。



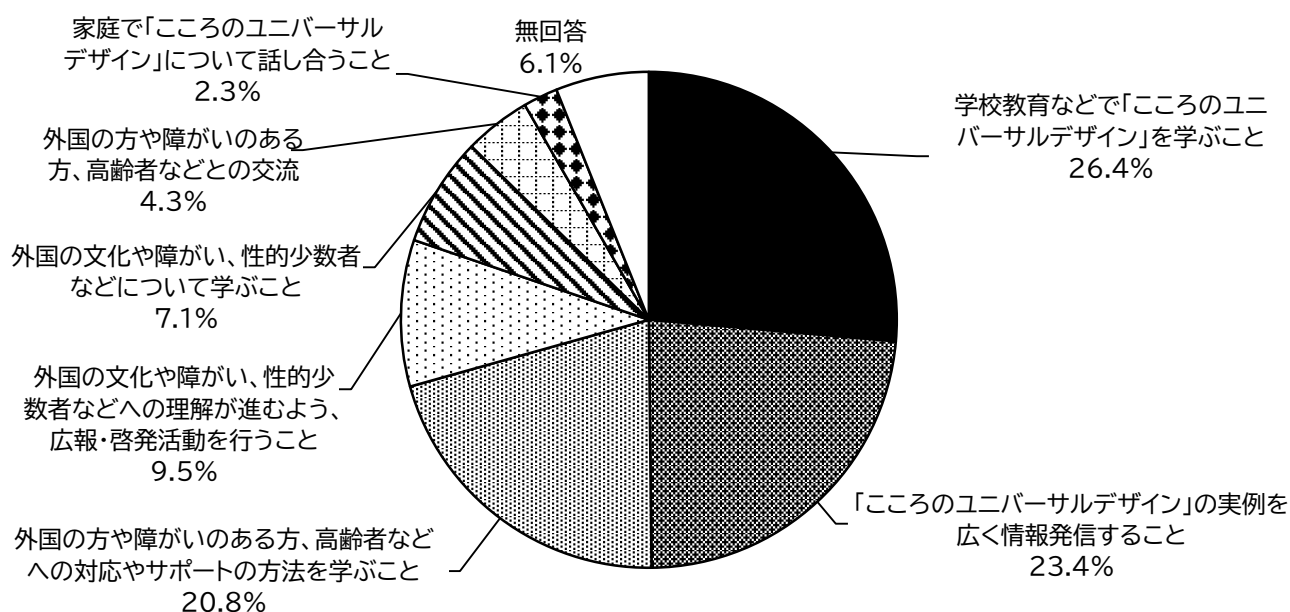
第3章 調査結果の概要と分析

【「こころのユニバーサルデザイン」実践のために必要だと思う取組】

問16:「こころのユニバーサルデザイン」の実践のためには、どのような取組が必要だと思いますか。

<全体>

○「学校教育などで『こころのユニバーサルデザイン』を学ぶこと」が26.4%で最も多く、「『こころのユニバーサルデザイン』の実例を広く情報発信すること」が23.4%、「外国の方や障がいのある方、高齢者などへの対応やサポートの方法を学ぶこと」が20.8%と続き、全体の7割を占めています。



<年代別>

○20代で学校教育などで学ぶこととの回答が43.2%と他の年代と比較し特に多くっており、学校教育を通してユニバーサルデザインの実践について学んでいることが伺えます。

	学校教育などで「こころのユニバーサルデザイン」を学ぶこと	「こころのユニバーサルデザイン」の実例を広く情報発信すること	外国の方や障がいのある方、高齢者などへの対応やサポートの方法を学ぶこと	外国の文化や障がい、性的少数者などへの理解が進むよう、広報・啓発活動を行うこと	外国の文化や障がい、性的少数者などについて学ぶこと	外国の方や障がいのある方、高齢者などの交流	家庭で「こころのユニバーサルデザイン」について話し合うこと	無回答
20代	43.2%	9.1%	22.7%	6.8%	6.8%	9.1%	0.0%	2.3%
30代	26.1%	13.6%	25.0%	10.2%	14.8%	3.4%	2.3%	4.5%
40代	28.8%	26.0%	21.2%	8.7%	7.7%	4.8%	0.0%	2.9%
50代	22.1%	25.7%	21.2%	12.4%	8.8%	4.4%	2.7%	2.7%
60代	23.9%	28.4%	22.9%	6.4%	2.8%	5.5%	4.6%	5.5%
70歳以上	24.8%	27.4%	14.5%	11.1%	3.4%	1.7%	2.6%	14.5%

3.ユニバーサルデザイン(「こころのユニバーサルデザイン」を含む)全般について
【様々な状況の方たちに必要と考えるユニバーサルデザイン】

問 17:様々な状況の方たちについて、あなたが必要と考えるユニバーサルデザインがあれば、それぞれ教えてください。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1 妊婦や子ども連れの方 | 4 外国出身の方 |
| 2 高齢の方 | 5 性的少数者の方 |
| 3 障がいのある方 | 6 そのほか |

<項目別>

1 妊婦や子ども連れの方

思いやりや配慮が必要との回答が最も多く、他に優先席や街中での休憩スペース、安全に利用できる施設等の設置、ベビーカーや子ども連れでも安全に歩行できる道路の整備などが挙げられました。

年代	性別	回答
20代	女性	働きやすい環境づくり
20代	女性	子どもがいても働ける環境
20代	女性	トイレとは別にオムツ交換・授乳専用の部屋
20代		道を整備し、広くする
20代		夜の道路に街灯が無いのが気になる。小さくてもちゃんとあるべき
20代	男性	妊婦・子ども優先マーク
20代	男性	より安全な施設等
20代		電車をはじめ席や通行など優先されるべき
20代		妊婦はバスやタクシーが無料で利用できる、授乳室マークなど
20代	女性	優先レジ
30代	女性	安全で利用しやすい施設、遊び場
30代	男性	公共交通機関での配慮
30代	男性	バスの通路がせまい
30代	女性	外出時の大変さを知る機会。精神的な大変さも含めて
30代	男性	妊婦だとわかる身につけるものがあれば
30代	女性	スーパーや病院等、車を出入口の近くにとめる事ができる駐車場。妊婦マークがあるが知られていないように思う

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	女性	これから未来のある子供たちは国の宝なので、そのような愛のある共通のマークがあれば、みんながその子の家族のようにイヤイヤ期で泣いたりさけんだりしても、笑顔を向けれるのではないか
30代	女性	今は妊婦ということを表示できる物があるからいいが、私が妊婦の頃(12年前)は、妊娠初期(つわり期)に社会で嫌な思いをしたことがあった。今後そういう人が増えないように、「妊婦」という表示を普及させてほしい
30代	女性	信号機の押しボタン、もっとおしやすくしてほしい
30代	女性	車や自転車などを気にせず歩くことが出来る道路や通路
30代	女性	温かい目で見守ること
30代	女性	双子や兄弟でも使える買い物カート
30代	女性	子供が公共施設や公共交通で泣いたりした時でも大丈夫なスペース(女性車両のような)
30代	女性	どの状況の方たちも、まず声かけが必要だと思う。私も含め「お困りですか？」の一言が言える人たちが増えたら。そのためには、家庭や学校・職場での教育・話し合いの場が設けられ、思いやりの気持ちを常にもつことが必要
30代	女性	男子トイレにも子供・赤ちゃんのオムツ替え台の設置する
30代	男性	段差がゆるやかな階段
30代	男性	階段だけしかない建物や施設はなくしてほしい。ガードレールが少ない。産休に入るまでが長く、つわりなどで安易に休めない。気軽に行けるキレイな公園が少ない。特に会津は車がある前提で設計されているがよくない。乳児健診なども郊外での開催があたり前になっているが、市役所付近などでの実施でもよいのでは？バスは使いにくく、高齢者も大変そう
30代	女性	妊婦さんのお腹がひっかからない少し高めのテーブル
30代		小さな子どもを連れていける、環境や道具がそろった店や遊び場
30代	男性	安全が確保された公共施設や商店
30代	男性	妊婦・子ども達の親子の優先席等
30代	女性	小さい子供が遊べる、室内のあそび場、妊婦やママたちが交流する場所
40代	女性	邪魔をしないように気を配る
40代	女性	授乳やおむつ替えのできる施設
40代	男性	一人ひとりの思いやり
40代	男性	子どもが泣いていることに理解してあげること
40代	男性	安心して遊ばせられる、市で管理する屋内の遊び場がほしい
40代	男性	公共交通機関や公共施設の優先席
40代	男性	段差のない歩道
40代	女性	妊娠状況は人それぞれ違うため、家族に言っても理解されない事が多く、気軽に相談できるシステムがあれば良い

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	男性	優先時間、優先場所の設置
40代	男性	こういった方々に優しくできない気持ちが理解できない
40代	男性	タクシーの利用(助成制度)
40代	男性	出歩かなくていい生活環境の整備
40代	男性	体力の面で特に自身が不安であることの提示
40代	女性	思いやりの気持ちの「こころのユニバーサルデザイン」が共通点になると思う
40代		歩道の拡張、各所の段差の解消
40代	女性	移動や施設利用の円滑化に対する取組。例えば公園に授乳施設を設置するなど
40代	女性	電車・バスを利用する際、妊婦さん・子供連れの方を優しく見守りたい
50代	男性	段差の解消や手をつないで歩ける道幅(通路幅)の確保。万人の穏やかな心
50代	男性	段差のない階段や歩道
50代	女性	お互いがマナーを持っていないと、やさしくなれないと思う
50代	男性	通行を優先する
50代	女性	優先出来る環境作り、社会の理解度
50代	男性	優しく見守る
50代	女性	施設等での優先スペースや個別スペースを設ける。または他の人にも知ってもらった上で共有してもらう意識
50代	男性	広い駐車場の設置
50代	女性	授乳やオムツ交換できるスペースの確保。分かりやすく
50代	女性	室内でおもいきり遊べる施設があると助かる
50代	女性	イベント等の優先や待ち時間の短縮をする
50代	女性	すべて義務教育の中で教えるのが良いと思います。その前に先生方がこの事について深く理解することが必要です
50代	女性	休憩スペースなどがあるといい
50代	男性	スロープと階段の組み合わせ
50代	男性	席や順番をゆずる
50代	女性	優先的配慮をあたりまえに出来る事が通常
50代	女性	困っている時のあたたかい声かけ
50代	女性	出先などでの休憩所の充実
50代	男性	通行路・信号・公共トイレ・商業施設等のバリアフリーの徹底
50代	男性	優先座席
60代	女性	公共交通機関、公共施設の優先席
60代	女性	安全な歩道の確保

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
60代	男性	何か手助けになる事を聞く
60代		優先席を増やす
60代	女性	社会的な弱者に対する思いやり
60代		身体に負担のかからない道路や、時々休める場所
60代	女性	おたがい様という気持ちで接する事が大切だと思います
60代	女性	授乳やオムツ交換のスペース設置。公共交通機関で席をゆずってあげる事
60代	女性	手助けが必要な時は快く
60代	男性	気軽に SOS を出せる仕組みが必要
60代	男性	街中や交通機関等での安全な行動ができるようにしていくこと
60代	女性	ほほえましく見守る
60代		乗り物での席を譲る
60代	女性	おもいやり、優しい気持ち
60代	女性	子育てに対する不安・心配を相談出来る環境・施設・自然の整備。村・地域に広め、昔の様な、皆で見守れる様に
60代	男性	歩道に座って休めるベンチなど
60代	男性	歩道の完備、段差のない歩道、声かけ(困った様子にみえるケース)
60代	男性	道路の段差をなくす、幼児用のトイレを設置(公共施設)
70 歳以上	男性	暖かい見守りと手助け
70 歳以上	男性	仕掛学等の導入
70 歳以上		休める所が必要。ベンチや木陰など
70 歳以上	男性	安全性を重視したデザイン、全ての場面で優先されること
70 歳以上	女性	使いやすい施設
70 歳以上	男性	思いやりを持って見守りましょう
70 歳以上		全般に言える事ですが、思いやりが色々な場面で無い様な気がする。自分(含む家族)さえ良ければとムードが多い
70 歳以上		行政手続きの複雑さ、煩雑さ
70 歳以上	男性	公共交通機関や職場等でも負担(肉体・心)にならない様な取り組みが必要
70 歳以上	女性	子どもは地域で育てるものなので、手助けをしてあげたい
70 歳以上	女性	この方たちをファーストと考えて行動する
70 歳以上	女性	乗物・バス・電車などには進んで声かけをする
70 歳以上	女性	状況を判断し、必要な声かけをすること。余計なお世話にならない様にするのが難しい
70 歳以上	男性	街中に小さな休憩所を沢山設置する
70 歳以上	女性	妊婦・子連れの優先駐車場

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70 歳以上	女性	幅の広い改札、車椅子・松葉杖・ベビーカーを利用している人から旅行者・子ども連れで荷物がたくさんある人まで、誰もが余裕を持って通過することができます。多くの人が駅を利用しやすくなると思います
70 歳以上	女性	何か手伝える事があるか声かけをする

2 高齢の方

公共交通機関の充実や段差のない道路の整備といった、移動時の安全や利便性についての回答が多く、他に思いやりや気配り、街中の休憩スペースの設置、施設等における手すりや引き戸、段差のないフロアといったバリアフリー化、分かりやすい言葉での情報提供などが挙げられました。

年代	性別	回答
20代	女性	車道と歩道に柵をつくり、横断歩道のない道を横断しないようにする
20代	女性	駅にエレベーターを付ける
20代	女性	避難所となるところのトイレの洋式化、手すりをつける、段差をなくす
20代		カタカナを少なくする(日本語英語、横文字)
20代		車の運転について考えるべき、頭ごなしに「運転ダメ」ではなく、社会で運転しなくてもいいように交通を便利にする
20代	女性	電動車いす(カート)が通れるような歩道
20代		専用のレジがあると良い
20代	男性	まずはバリアフリーが大事だと思います
20代	男性	バリアフリー等の設置
20代		人ごみ、人が大勢集まる場所(イベントなど)では優先されるべき
20代		バス・タクシー無料、高齢者の1人暮らしマーク
20代	女性	優先レジ
30代	女性	バリアフリーや休憩スペース
30代	男性	公共交通機関での配慮
30代	女性	社会とつながり、好きな事や習い事ができるように
30代	女性	声かけ等、手助けできるようにする
30代	女性	段差をなくす
30代	女性	1人暮らしの方を地域で手助けしていく
30代	女性	どの状況の方たちも、まず声かけが必要だと思うから。私も含め”お困りですか?”の一言が言える人たちが増えたらと…。そのためには、家庭や学校・職場での教育・話し合いの場が設けられ、思いやりの気持ちを常にもつことができればと考えます

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	女性	電動車いす(シニアカー)が通れるように歩道をひろくする
30代	男性	段差がゆるやかな階段
30代		段差が少ない所を増やす。車イス・シルバーカーなど増やす。休憩所
30代	男性	移動しやすい環境、表示の明確化
30代	女性	車のない人が利用しやすい移動手段、買い物に行けない人へのサポート(移動販売等)
40代	女性	お互い生活しやすいように環境を整える
40代	女性	ゆっくり渡れる長めの信号、バス停に椅子
40代	男性	一人一人の思いやり
40代	女性	町内会の集会などで、多様性の大切さを周知する。高齢者も学ぶべき
40代	女性	情報共有に関すること
40代	男性	免許証の返納をすすめること
40代		交流
40代	男性	こどもの施設の充実と同時に、ご高齢の方が安心して過ごせる、情報交換したり、お茶のみ友達を作ったり、サークルをしたりなどできる総合施設があるとよいのでは
40代	男性	公共交通機関や公共施設の優先席
40代	男性	段差のない歩道
40代	女性	身体的リスクがある方だと引きこもった生活になってしまうので、他者との交流がスムーズに行えるよう支援する環境を作った方が良いと思う
40代	男性	わかりやすい日本語での周知(カタカナ言葉が伝わりにくい)
40代	女性	思いやりの気持ちのユニバーサルデザインが共通点になると思う
40代	女性	何でも機械化していると、かえって大変そうにしているところを見るので、アナログでもOKという選択があっても良いのでは?と思うことがあります
40代		歩道の拡張、各所の段差の解消。各種表記物の文字拡大
40代	女性	案内表示に絵を入れて大きく表示する
40代	男性	大きな字や音声での案内装置
50代	男性	段差のない階段や歩道。案内板等の表示の文字を大きくする
50代	男性	通行を優先する
50代	女性	優先出来る環境作り、社会の理解度
50代	男性	常に気配りを
50代	男性	操作しやすい電子デバイス
50代	女性	カタカナ語を日本語に置き換える

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	女性	行動の制限が増すので、公共交通の使い勝手がよくなれば。又はタクシーの割引など
50代	女性	公園や椅子の設置
50代	男性	利用しやすい施設整備
50代	男性	デマンドバスやタクシーの活用
50代		バリアフリー、公共交通機関の利便性
50代		優先して座れる席をバスなどで増やす
50代	女性	障がい者用のトイレ以外にも、手すり(トイレ内)を付けて欲しい。トイレのドアに手すりがついているマークを付ければ分かりやすいと思う
50代	女性	隣近所の方による声かけ・支援体制
50代	女性	こちらからのあいさつ・声掛け
50代	男性	ゆとりをもって接すること
50代	男性	優先座席
60代	女性	公共交通機関、公共施設の優先席
60代	女性	段差を無くす
60代	男性	何か手助けになる事を聞く
60代	女性	認知症の方等をフォロー出来る仕組み
60代		身体に負担のかからない道路や時々休める場所
60代	女性	地域での支え合い
60代	女性	段差や道路のデコボコをなくす、手すりをつける
60代	女性	道路の白線・黄色の線・横断歩道の線をはっきり書いて欲しい。見にくい
60代	女性	利用しやすい公共交通サービスの提供、一人暮らしの高齢者への支援(高齢者になると車の運転もできなくなるので)
60代	女性	段差の少ない道路・建物
60代	男性	ホテルや食堂で座り易いテーブルや椅子が必要
60代	男性	街中や交通機関等での安全な行動ができるようにしていくこと
60代	女性	三軒両隣の見守り
60代	男性	横断歩道などの見守り。スーパー等で探し物がわからない時などの案内
60代	女性	おもいやり、優しい気持ち
60代	女性	1人暮らしの方が多い。交流を深め見守ってあげられる環境
60代	男性	歩道に座って休めるベンチなど
60代	女性	歩道の完備、段差のない歩道、声かけ
60代	男性	道路の段差をなくす
70歳以上	女性	自分自身高齢のため共に助け合い力を借りることが大切

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70歳以上	女性	なるべく外出し、楽しんで過ごせる様な手段(交通機関)があれば
70歳以上	男性	交通、歩行の援助
70歳以上	女性	施設のドアは引き戸が良い
70歳以上	男性	年をとると寂しい気持ちになる、声をかけてあげましょう
70歳以上		行政手続きの複雑さ、煩雑さ
70歳以上	男性	高齢者と若者の交流の場、集まる場所の提供がわかるデザイン
70歳以上	女性	カタカナ文字が多いので理解しにくい。わかりやすい文章にしてほしい
70歳以上	女性	この方たちをファーストと考えて行動する
70歳以上	女性	高齢と見られるのが嫌な人も居るので、慎重に声かけをする
70歳以上	女性	状況を判断し、必要な声かけをすること。
70歳以上	女性	横文字は解りにくい
70歳以上	男性	印刷物などの文字を大きくする
70歳以上	女性	大きな文字・デザインの簡素化
70歳以上	男性	段差をなくす
70歳以上	女性	何か手伝える事があるか声かけをする

3 障がいのある方

段差のない道路の整備、点字ブロックの補修といった移動時の安全に対する回答が多く、他に障がいに対する理解や配慮、働きやすい環境づくりや支援などが挙げられました。

年代	性別	回答
20代	女性	働きやすい職場づくり
20代	女性	点字ブロック、障害のある方が働ける環境と雇用
20代	女性	障がいについての知識・対応の普及
20代		周囲の理解
20代		固定概念のある方が多い。もっと色々な人がいることを知るべき
20代	男性	まずはバリアフリーが大事だと思います
20代	男性	バリアフリー等の設置
20代		ヘルプマークの普及
30代	女性	音声案内
30代	男性	公共交通機関での配慮
30代	女性	高齢者の方と同じ、同じく障がいのある方同士の情報交換やおしゃべりの場

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	男性	視覚障がいのある方のステッキや車椅子の方は見分けがつかず、内部障がいの方はわかりづらいので、ヘルプマークやサインが必要だと思う。助けが必要になる可能性がある人はわかるようにすべき
30代	男性	意識づくりの活動
30代	女性	差別の考えをなくす、子どもの頃から障がいのある子たちとふれあう時間をつくる
30代	女性	段差をなくす
30代	女性	電車やバスを気軽に利用できる様に
30代	女性	どの状況の方たちも、まず声かけが必要だと思うから。私も含め”お困りですか？”の一言が言える人たちが増えたらと…。そのためには、家庭や学校・職場での教育・話し合いの場が設けられ、思いやりの気持ちを常にもつことができると考えます
30代	男性	ヘルプマークの認知度を高める、ヘルプマークの意味の簡素化・統一化
30代	男性	障がいに対する偏見がない町づくり、意識
30代	女性	道の整備(車イスの人でも移動しやすく、高低差や段差のない歩道)
40代	女性	安心して生活できるように配慮する。手話で会話できる人を増やす
40代	女性	電動車イスなどで自由に移動できるような、段差が少なく広めの歩道
40代	女性	買い物や移動時の補助。ネット端末を使つてのコミュニケーション
40代	男性	一人一人の思いやり
40代	女性	正しくサインがつたわる方法の周知
40代		交流
40代	男性	教育の場で障がい者への対応を教えるのもいいと思う
40代	男性	公共交通機関や公共施設の優先席
40代	女性	盲導犬・介助犬など入れるお店がふえるとよいと思う
40代	女性	精神障害は見た目では分からない。ヘルプ(フォロー)を意思表示としてマークがあればいいと思う
40代	男性	段差のない歩道
40代		働く場所が広くあれば社会に受け入れられやすいのでは。学校を少人数制にすれば、障がいのある人も個性として受け入れやすいきっかけとなるのではないか
40代	女性	障がい者が生きづらい環境でもあり、その人の世界観に配慮する地域環境作りが必要だと思う
40代	男性	ふれあう機会が必要(知らないから怖い)
40代	男性	車いす使用による道路の段差解消(特に側溝のふた)
40代	男性	外見上、障がいの有無が分かりづらい人への配慮
40代	女性	思いやりの気持ちのユニバーサルデザインが共通点になると思う
40代		歩道の拡張、各所の段差の解消

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	女性	軽度障がい者(見た目わからない方)の仕事の手助け、理解できるようになるまで指導してくれる
40代	女性	段差の解消
50代	男性	バリアフリーの推進。「障がい」への理解
50代	女性	生活の困りごとなどを気軽に相談できるシステム
50代	女性	優先出来る環境作り、社会の理解度
50代	男性	差別的な事はしない
50代	女性	外出時、ヘルプカード等の利用をいかに現実的にするか(必要な時にスムーズにするために)
50代	男性	だれもが安心して行くことができる、施設の整備
50代	男性	歩道の点字ブロックがはがれていたり、施工当初の状態を維持できていないと、障がいのある方にとっては迷ってしまい、逆に危険につながってしまうのではないかと。一度工事したからと満足しないで、常に気持ちを持っていれば、直さなければとすぐ思うはず。ユニバーサルデザインを本気で考えていないのかなと思っています
50代	女性	点字の表示が色々な所にもう少しあってもいいなと思います
50代	男性	広い心を持って接する
50代	女性	段差、分かりやすい文章、絵での説明
50代	男性	歩道のバリアフリー化
50代	男性	声掛け運動と助け合い精神
50代	女性	障がいの状況にもよると思うので、ハンディキャップはそのまま受けとめ、過剰な対応はしない
50代	女性	移動手段の支援
50代	女性	相手の気持ちを理解することが大切
50代	女性	こちらからのあいさつ・声掛け
50代	男性	ゆとりをもって接すること
50代		段差の解消、エレベーターの増設
60代	男性	点字ブロック設置、音による注意
60代	女性	何か手助けになる事を聞く
60代	女性	見守る心
60代	女性	身体に負担のかからない道路や時々休める場所
60代	女性	スーパーなどの通路を広くする。最近「誰でも使って下さい」という貼り紙がありますが、本当に必要な人が障がい者トイレを使うという考えはおかしいですか？何でもない人が使ってて入れない事がよくあります
60代	女性	おたがい様という気持ちで接する事が大切であると思っています

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
60代	女性	危害がないように見守る
60代	女性	障がいのある人への理解、合理的配慮
60代	女性	視覚や音できちんと知らせる
60代	女性	使い易い食器
60代	女性	サポートの仕方を学んだり、交流の場を多くする
60代		おもいやり、優しい気持ち
60代	男性	「気軽に声をかけて下さい」の看板を多くする
60代	女性	バリアフリーの環境。地域全体で見守って、手助け出来る環境作り
60代	男性	歩道の完備、段差のない歩道、声かけ
60代	男性	道路の段差をなくす
70歳以上	男性	活躍の場の確保
70歳以上	男性	市内の段差の解消
70歳以上	男性	健常者との交流・共生の場を多く設ける
70歳以上	男性	交通、歩行の援助
70歳以上		行政手続きの複雑さ、煩雑さ
70歳以上	女性	手助けが必要な方には、さりげなくしてあげたい
70歳以上	女性	この方たちをファーストと考えて行動する
70歳以上	女性	状況を判断し、必要な声かけをすること
70歳以上	男性	公共の建物のバリアフリー設計の促進
70歳以上	女性	センサー式蛇口は、握力の弱い人や手に障がいがある人も無理なく利用することができます。特に公衆トイレは衛生的
70歳以上	男性	思いやりの心
70歳以上	女性	何か手伝える事があるか声かけをする

第3章 調査結果の概要と分析

4 外国出身の方

案内表示や音声案内の充実、アプリの活用といった分かりやすい情報提供に関する回答が多く、他に思いやりや気づかいなどの回答が挙げられました。

年代	性別	回答
20代	女性	観光施設などのスタッフに外国語が話せる人や、通訳機能のある機械を設置する
20代	女性	商業施設などに災害時に避難しやすいような外国語の案内表示
20代		英語力を身に付けさせる
20代		固定概念のある方が多い。もっと色んな人がいることを知るべき。色んな人に出会った方が良い
20代	男性	目につきやすい場所に英語表示をする
20代	男性	色々な外国語が必要だと思う
20代		外国語表記の案内などふやす
20代		観光案内所に多言語対応機械の設置
20代	女性	イラストを増やす
30代	女性	音声案内やタッチパネルの道案内
30代	男性	案内看板、公共交通機関での配慮
30代	男性	広告・看板の多言語・アイコン化
30代	男性	翻訳機など意思疎通のとれるもの
30代	女性	簡単なあいさつ・質問・答えなど位は話せる様に語学を身につける
30代	女性	英語を話せる方がいる公共施設の公表など(何力所か)
30代	女性	絵の表示などで分かりやすく
30代	女性	どの状況の方たちも、まず声かけが必要だと思うから。私も含め”お困りですか？”の一言が言える人たちが増えたらと…。そのためには、家庭や学校・職場での教育・話し合いの場が設けられ、思いやりの気持ちを常にもつことができると考えます
30代	男性	英語教育(全年齢)の充実
30代	女性	標識や看板を分かりやすいものに変えていく
30代	男性	翻訳アプリなど。英語を普及させるよりも早いと思う
30代		他国語を話せる人の配置を増やす
30代	男性	言葉の壁を感じさせない表示や表現
40代	女性	看板など、英語表記を増やす
40代	男性	外国語のできない店舗にて、リアルタイムでスマホを使ってオンライン通訳
40代	女性	一人ひとりの思いやり
40代	女性	町中(コンビニなど)に案内所を多く作り、タブレットで多言語対応する
40代	女性	QRコードを活用する等、情報の共有

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代		それぞれの言語に対応した MAP 作り
40代	男性	交流
40代	男性	教育の場で外国の方と接することに抵抗をなくすよう教えられれば大人になっても大丈夫なのでは
40代	男性	外国語のマップやバス・電車の時刻表
40代	女性	ピクトサイン
40代	男性	会話の壁や習慣の違いがある為、外国人が寄れる施設やマップがあれば対応できると思う
40代	男性	世界共通のマークの使用(トイレ・非常口など)
40代	女性	外国語がわからないと会話もできないので、見てわかる案内看板などや、案内できる人が分かる印になるものがあるといいのでは
40代	女性	思いやりの気持ちのユニバーサルデザインが共通点になると思う
40代	女性	多言語表記の拡大、ピクトグラムを活用拡大
40代	男性	案内表示を英語で表示する
40代	女性	大型モニターなどで複数言語を案内する
50代	男性	案内板、誘導サイン、館内放送などの多言語対応
50代	男性	わかりやすい案内板等の設置
50代	女性	生活の情報提供や通訳が必要な場合に気軽にたのめるシステム
50代	女性	優先出来る環境作り、社会の理解度
50代	男性	簡単な日本語での表記
50代	男性	言葉だとわからないがマークだとわかる
50代	女性	案内板・標識のみやすい、わかりやすいもの
50代	男性	防災情報の多言語発信
50代	女性	簡単に言葉を覚えられる様なカードの利用
50代	女性	わかりやすい表示
50代	男性	身ぶり手振りでも伝える努力をする
50代	女性	通訳者・通訳機・看板の標記
50代	女性	観光地以外でも日本語表記と外国語表記の箇所をもっと増やす
50代		ピクトグラムなど
50代	女性	世界共通の記号・デザイン等があれば、率先して取り組みの中に入れる
50代		標識などを増やす
50代	女性	交流機会を増やす
50代	女性	こちらからのあいさつ・声掛け
60代	男性	それぞれの言語での案内表示の充実

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
60代	男性	外国語表記、図で理解できる表示
60代	女性	広告・表示の多言語表記、日本のマナーセミナー
60代	女性	会話がスムーズにできる機器の無料貸し出しや簡単な会話ができるパンフレット
60代	女性	外国語併記でわかりやすい情報の提供、ピクトグラム、必要な情報を必要な時に入手できる手段や方法
60代	女性	英語の案内板。基本の英語が話せるように
60代	女性	日本の文化を理解しやすい情報の提供
60代	男性	外国人向けの案内表示の充実
60代	男性	Simple Chat
60代		おもいやり、優しい気持ち
60代	女性	困っていることがあれば、助けてあげる。日本に来て良かったと思えるように
60代	女性	外国語のサイン
60代	男性	外国語での道路標識の充実
60代	男性	何か国語か表示された標識
70歳以上	男性	偏見除去の啓発。旅行者への案内アプリの充実。
70歳以上	男性	外国語によるきめ細かい案内板の設置
70歳以上	男性	日常会話レベルの語学を習得する場を増やす、出来れば国別の特色も学べるとよい
70歳以上	女性	同じ目線で物事を見ることへの気配り
70歳以上		行政手続きの複雑さ、煩雑さ
70歳以上	男性	日本と外国の文化交流の場
70歳以上	女性	状況を判断し、必要な声かけをすること。余計なお世話にならない様にするのが難しい
70歳以上	女性	キャッシュレス決済にシフトする。通貨の単位もよくわからない中で、見慣れない紙幣や硬貨を扱うことは苦勞が伴います
70歳以上	男性	英文案内板の拡充
70歳以上	女性	何か手伝える事があるか声かけをする

第3章 調査結果の概要と分析

5 性的少数者の方

性的少数者の方に対する理解や配慮、そのための学校教育や学ぶ機会を求める回答が多く、他に多機能トイレの増設などが挙げられました。

年代	性別	回答
20代	女性	気持ち悪いという意識改革、偏見や差別をなくす
20代	女性	LGBT に関する知識の普及
20代		周りの理解を深めるため情報を発信する
20代		固定概念のある方が多い。様々な人がいることを知り、もっと住みやすい環境を整えるべき
20代	男性	特別でないという意識改革
20代	男性	平等な考えが必要
20代	男性	同じ境遇の方同士の交流
30代	女性	多目的トイレの設置
30代	男性	学校での授業でもっと知る機会、大人もよくわからないので知る機会がほしい
30代	女性	周囲の理解
30代	女性	周囲の理解が進む様な情報や相談(本人達が)窓口などの開設
30代	女性	どの状況の方たちも、まず声かけが必要だと思うから。私も含め”お困りですか？”の一言が言える人たちが増えたらと…。そのためには、家庭や学校・職場での教育・話し合いの場が設けられ、思いやりの気持ちを常にもつことができると考えます
30代	男性	性的マイノリティについて学び、偏見をなくす。学ぶ機会をつくる
30代	女性	個性としてみとめる心
30代	男性	トイレは男女の区別しかないので入りにくいと思う
40代	女性	誹謗中傷されない、しない。個人を認め受け入れる
40代	女性	地方独特の少数者への偏見をなくすための教育、広報
40代	男性	一人ひとりの思いやり
40代	女性	学校の制服のスカート廃止。ズボンほどの性であれ着用できそう
40代	女性	公共の場でのマイノリティに対する配慮
40代		交流
40代	男性	メディアからの知識が多く、間違った情報もあると思う。教育の場であたりまえだというように教えていただければ、大人になってからの考えもかわると思う
40代		男・女と分けられることが多い社会のしくみや施設を変えていく。例えばトイレ、学校の制服など
40代	男性	性的少数者というくくりは必要か？障がい者も LGBT も外国の方も一般の方も誰でも平等に気軽に利用できるトイレ・個室の更衣室などの設置
40代	男性	こういった方々に優しくできない気持ちが理解できない

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	女性	トイレなど、男・女で分けると使用しづらくなるので、だれでも使用できる場をつくる
40代	女性	思いやりの気持ちのユニバーサルデザインが共通点になると思う
40代		多目的トイレの増設。性別を連想させる色の使い方の配慮
40代	女性	他者の視線を気にせず利用できる多機能トイレの設置
50代	男性	多目的トイレの整備。異なる価値観を理解できなくても否定しない意識の醸成。
50代	女性	優先出来る環境作り、社会の理解度
50代	男性	性で区別される施設のあり方(区分を増やすか、あるいは逆に区分を撤廃するか)
50代	女性	差別しない環境づくり
50代		理解を深める環境の整備
50代	女性	同じ人間なので、特別と思わない意識が必要
60代	男性	好奇の目で見ない
60代	女性	色メガネで見ない事
60代	女性	偏見の解消
60代	女性	多くの人に理解してもらえるような学習会など
60代	女性	個性の尊重、思いやりのこころ
60代	女性	学習会などで意味をきちんと知る
60代	女性	男・女ではなく、人間として話ができるように
60代		おもいやり、優しい気持ち
60代	女性	自分(そのまま)を出して、自分を受け入れ、皆も受け入れ見守ってあげる心と環境
70歳以上	男性	意識変革への取り組み
70歳以上	女性	コミュニケーションの場を広げる
70歳以上	女性	「男女共用個室トイレ」を設置する。既存の男・女用に分けられたトイレは心理的に入りにくく、他の利用者にも配慮が求められる
70歳以上	男性	啓発・広報活動

第3章 調査結果の概要と分析

6 そのほか

どのような状況の方に対しても、思いやりや気づかいが必要との回答が多く挙げられました。

年代	性別	回答
20代	女性	困っていること、配慮が必要なことを示すマークだけでなく、手伝えること、頼っていいですよとアピールできるマークがあれば、お互いに助けあえるかなと思いました
20代	女性	この項目で区別されていることが、そもそもおかしい。ユニバーサルデザインは、全ての人を分け隔てなくすることでは
30代		認知している人が増えれば、もっとわかりやすい対処法が見つかると思う
30代	女性	自分自身ヘルプマークを付けていたら差別を受けた。理解されていないなど思った
30代	女性	自分も以前、足のケガで何か月も松葉杖で生活していました。スーパーでは車いすを借り買い物をするがありました。たった 1 cm 2 cmでも段差(坂があるのも難しい)があると 1 人では難しいです。また、行きたいお店が以外と手動のドアが多く、障がいの方・高齢の方向けの内装にしてもらいたい。また、LGBT 向けのトイレの設置、学校にもあるといい
30代		未来を考えると、子どもや、子どもを連れていくお母さん・お父さんが、もっと楽に休日を過ごせる場所があってほしいと思います。若い人・子どもが少しでもストレスの少ない生活にならないと未来はないと思います
40代	女性	全ての人に対して、その人を尊重し偏見をなくす
40代	男性	ユニバーサルデザインのアンケートであるのに、質問の項目が分かれている(妊婦・高齢・障がい・外国・性的少数など)ということが、即ち答えではないか。”全ての人にとって”という前提ならば区別してはいけないのでは
40代	女性	思いやりの気持ちのユニバーサルデザインが共通点になると思う
40代	男性	誰もが公平という原則があるので、子供・障がい者・高齢者に関係なく、皆が使いやすい物
40代	女性	色々な考え方・思いがある事を知り、違いがある事(違いがあっても良いという事)を理解する
40代	女性	それぞれの方が笑顔で安全に暮らしていくために必要なものを形にしていくこと
40代	女性	色覚障害のことも広くみなさんに知って欲しい
50代	男性	他者を尊重する意識。万人が心穏やかに過ごせる社会
50代	女性	会津に根づく武士道の精神から子どものうちから教育として、助け合い・ボランティアを学習させる
50代	女性	1 人ひとりが意識を高めるユニバーサルデザインとは？相互理解は必須ですが、お互いに疑似体験の場を小・中・高と学んでもらう必要性があると思います。個々の主観は(ユニバーサルデザインにおいて)そこから芽生えるのではと個人的には考えます。正直、市民の意識及びユニバーサルデザインとしての知識は低いのではないのでしょうか。それは、個々人が体験していないからと思われる。

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	女性	実際にこのような状況の方々と過ごす(お会いする)機会がなければわからないと思います。すべては身近であるということをもっと発信すべきだと思います
60代	女性	人間は性別・国籍・年齢・能力にかかわらずとありますが、やはり教育です。こういうことを学校で学ばせるべきです
60代		人が生活して行く中で、平等に助け合っていく事は当然の事、助けが必要な場合は、助けるそれでいいと思う。学校教育で教えればいいと思う
60代	女性	全てに思いやり。人を思いやれる心を作って成長できる教育環境作り
70歳以上	男性	司法・立法・行政の全てにおいて心のユニバーサルデザインが不十分
70歳以上	女性	いたわりの気持ちをもって見守り、万一の場合は手助けする心がまえは一朝一夕に出来ないなので、小さい時からの教育・学習が必要と思う
70歳以上	男性	公共機関等で率先して、わかりやすく多くの人に周知出来れば良いと思う
70歳以上	男性	すべて思いやりとゆずり合いの心が求められる

【新型コロナウイルス感染症と「こころのユニバーサルデザイン」】

問18:新型コロナウイルス感染防止のため、不要不急の外出自粛やソーシャルディスタンス(社会的距離)の確保などを行う中で、「こころのユニバーサルデザイン」について気付いたこと、感じたことがあれば教えてください。

例)・スーパーで買い物をする時、高齢者や妊婦等を優先する時間帯があり安心できた。
・非常時こそ思いやりが必要。 など

<全体>

〇ソーシャルディスタンス等、感染防止のため周囲を気づかう行動をする人が増えたとの回答がある反面、他人の行動に敏感になり過剰反応する人や、自分の事しか考えていない心に余裕のない人が増えたとの回答も多く挙げられました。人々の不安を解消するために、正しく分かりやすい情報の提供が必要との意見も見られました。

年代	性別	回答
20代		自分がかかってしまった場合の周りへの影響を考えていない人が多い。周りへの配慮、思いやりが足りない
20代	男性	マスク着用やアルコール消毒など、強制されている訳ではないにも関わらず、ほとんどの人が行っているのを見て、自分がかからないためというのはもちろんだが、他人(特に高齢者など)に移さないための思いやりがあると感じた
20代	女性	席を譲る、荷物を持ってあげるなどといった、行動面(身体的)の手助けだけでなく、「距離感」を保って感染防止を徹底しようといった精神面の手助けも合わせて重要に今後なってくるのではないかと感じた
20代	男性	日本人は冷たい。困っている人がいても声を掛けない。見ないふりをする。優しさを忘れていている気がします
30代	男性	自分の事しか考えていない人が多いなと思う一方、すごく周りを気にしてくださる方もいる
30代	女性	県内ニュースのキャスターの方が、感染してしまった人に対して「だれでも感染する可能性があります。感染した人に偏見・差別をもつのはやめましょう。」というようなコメントをされていて、感染者が出るたびにやさしくおっしゃっていたことに思いやりを教えられます
30代	女性	まだまだ世間の対応も模索中のなかなので、今後こころのユニバーサルデザインの方も対応できていけるとよいのではと思います
30代	女性	心に余裕がないと、人に優しく出来なくなりがちですが、相手の言葉を聞き分り合えるような環境が必要だと思います
30代	男性	非常時こそ思いやりが必要なのに、逆の事態が起こっている(人を責めるなど)
30代	男性	ソーシャルディスタンスやマスク着用など、周知されていても従わない方々がどうしてもしいる。「ルール・マナーを守る大人」を育てるべき

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	女性	行政や企業など、新型コロナウイルスに感染した場合に、重症化しやすい高齢者に対して情報開示や広報等様々な配慮をしていると思うが、高齢者の一部に配慮欠けた行動をしている方(マスクをせずに店に来て咳をたくさんするなど)もいる。高齢者に対してどのように「こころのユニバーサルデザイン」を周知していくかが課題と思う
40代	女性	自分のことばかりではなく、他人を思い気遣う心に余裕を持つことが大事だと思う
40代	女性	「買い物は極力1人で」といってもやむを得ず子供を連れていかなければいけないのに、周囲の目が「こんな時に子供を連れて歩かなくても…」といわんばかり。それぞれの状況、いろんな人がいると知ってほしい
40代	女性	コロナ禍のスーパー内で、少人数での来店と言うのは分かりますが、小学生1人を誰も居ない家で留守番させますか？他人の事情を配慮してほしいと思った事があります
40代	女性	マスクをせず子供が店内を走り回るなど、母は放置し、店員も注意しない。市民の意識を高めることが最も優先される。UDはそういう点にも活用されるとよい
40代	女性	考えや立場が違う方々が、同じ方向・目的を持って取組み行動する事は、とても大切・大事だと思う。但し、どうしても行き過ぎた自粛警察や最低限のルールを守らない方々に対しては、どうすれば良いのか考えることも多い
40代	女性	このような時だからこそ、ソーシャルディスタンスをとりながらの声かけが必要であると思います。まず身近なところからと考え近所の方への声かけは躊躇なくしています
40代	女性	自分は大丈夫だろうと自分の事しか考えていない人が感染を広げてしまったんだと感じます。他人の事を考えて行動することで自分も感染しないようになるのではないかと思います
40代	女性	根本的なところ、心のあり方のような気がします。相手の気持ちを少しでも考えてみる気持ちの余裕があればいいんだと思います
40代	男性	障がい児を育てていますが、そういう立場であっても奇声をあげていたり、激しい行動をしている姿を見かけると驚いてしまったり、恐怖を感じたりします。ですが、不思議と知ってる人が奇声をあげ暴れていても「そんな時もあるよね」「これは大変!! ストレス発散！」と笑いとばせてしまうものです。知らないから怖い、親しみが持てない。だったら知ろうとすることで理解の一步が始まるのでは？と思います。相手の立場を知ることは、高齢・障がい・外国の方にとってもふれあいの機会となるような気がします
40代	男性	マスクをしているとなかなか声が伝わりにくく、且つ、シートがあると病院受付・スーパーなどは意思疎通しにくい。カードのようなものを作って一助にすることは出来ないか？コロナに罹患した人や、やむを得ず関東圏に単身赴任している人、帰省者に対し会津は特に偏見が多く見受けられる

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	女性	全ての人々がインターネットで情報収集できるわけではないので、みんなが使いやすいものがよい。外食もタブレットなどでの注文が増えているが、便利である人と、使い方がわからないので外食も楽しめなくなっている高齢者などがあるようです。中には恥ずかしくて聞きにくいという方もいます
40代	女性	子供達に人の温かさがわかるか？家庭内で親がしっかりと教育する必要がある。この子供達が大人になったら、人との接し方がわかるように
40代	女性	インターネット環境の無い高齢者のみの世帯に、操作が難しくない画面が大きいタブレットなどがあれば、非常時に便利などではないかと思えます。タブレットが小さいと、操作が難しいようです
40代	女性	マスクをしてお店に入ったり、手洗い・消毒をまめにしたりと、一人ひとりが気をつけている。また、マスクをしていないからといって、混乱が起きない会津の日常が嬉しい。あたりまえがあたりまえでなく、一人ひとりの意識が安全をつくり出している。そして、その変化に対応できない人も含めて、おだやかに変化しているところに心の豊かさ、風土を感じる
40代	女性	ゆとり時間が出来たことで、読書の時間が増え、心にもゆとりが増え、相手のことを思いやり行動することができていると思えます
40代	男性	障害者にとって、ソーシャルディスタンスを保つ事は困難であり、これまでより一層の情報共有が必要である
40代	女性	一人一人の協力が必要だと思えます。多くの方々に思いやりを持ってもらいたい。自分も高齢になる時が来ます。皆さんに興味を感じてもらえるよう、様々な角度から広めたいと思えます
50代	男性	自粛警察と呼ばれるような過剰な反応が見られる。自分の価値観と異なる者を攻撃せず心穏やかに居られることが望まれる
50代	女性	いろいろな情報にながされやすいですが、自分にできることは、買い占めなどしないこと、またスーパーでの買い物の時間など、高齢者や妊婦さんに設けるのはよいと思いました
50代	男性	デジタルをもっと活用すべき。スマートシティを推進して、ユニバーサルデザインも実現すべき
50代	女性	1人ひとりが思いやりをもてたらよいと思えます
50代	女性	コロナ感染でいやな話を耳にする事が多い時ですが、今こそ助け合う「こころのユニバーサルデザイン」が必要だと思っております。まずは自分自身からこまっている人に手をかける方法を教えてほしいです
50代	男性	例えば今、スーパーのレジに並ぶ時はソーシャルディスタンスを意識しますが、これは他人を意識していることであり、他人に関心を持っていることにもなっていると思えます。これまで列の前後の人に無関心でした。周りの人に関心を持つことに欠けていれば、社会の中ではうまくやっっていけないし、ユニバーサルデザインも進まない。今、他人を意識して生きる良い機会になっているのではと思う
50代	男性	スーパー等で家族で連れ立って買物をしているのを見ると、三密を避ける行動に逆行していて、他者への配慮が足りないと思う

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	女性	心に余裕のもてない方も心えています、この様な状態だからこそ、思いやりの気持ちで、感染者へ偏見をもたない。医療従事者に対する理解・協力をすることが必要
50代	男性	会津の人たちは思いやりの気持ちがあり、こうした状況下においても他所から来た人たちへ排他的な気持ちを持ったり、行動を取ったりすることも少ないように思う
50代	女性	非常時こそ思いやりが必要。すべては良心(難しいことの上、「こころ」などという抽象的で曖昧な言い方なので白々しく感じてしまう)に照らし合わせて、想像力を働かせることだと思います
50代	女性	買い物している時に、ソーシャルディスタンスを確保するためレジで距離をおいて並んでいると、割り込んで並ぶ高齢者が何人かいました。子供連れで買い物している方に対しても、走りまわる子供を注意せずにいる親を何度も見ました。コロナで皆「お互い様」と思いやる気持ちでいても、意識の低い方もいるので、「こころのユニバーサルデザイン」は難しいことですね
50代	女性	各自がマナーを守り、思いやりが必要だと思います
60代	女性	正しい情報を広めること。各自の意識を高めること。感染した人を決して誹謗中傷しないこと
60代	女性	人と人との接触が減る中で、いかにコミュニケーションが大事か気付かされた。
60代	女性	コロナ対策は面倒と感じる事もありますが、ありがたいです。ユニバーサルデザインも市民だけではなく、一人一人思いやる意識を持つ教育が必要と思います
60代		思いやりが大切
60代	女性	昨今、町内会への参加意識が希薄になりつつありますが、コロナ禍で町内の助け合いの重要性を見直す必要が出てきたと感じます
60代	女性	非常時こそ思いやりが必要だと言いますが、人間の心は逆ですね。コロナ警察が良い例です。他県ナンバーの車が傷つけられたり、貼り紙されたり。感染者を責めているよう。「心のユニバーサルデザイン」は、そのあたりから変えなければ…。色々つくっても意味がありません
60代	男性	スーパーで買い物する事が時々あるが、高齢者はソーシャルディスタンスの確保等わからない人が多く、スーパーの従業員が思いやりを持ってもっと分かりやすく対応すべきである
60代	女性	買い物をする時、高齢者や障がい者の順番を先にしてあげる思いやりがあった
60代	男性	ユニバーサルデザインについて意識したことがないので、何がユニバーサルデザインに通じていくのか分からない事が多い。例に上げられているものを見て、これがそうかと思う。認識の浸透がもっと必要だと感じる
60代		各自の思いやりを高める事。通常より各自思いやりの精神を心がければいいと思う
60代	女性	非常時こそ、本当に思いやりが必要だと思います。自分さえ良ければではなく、分かち合いの心が必要と感じている

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70 歳以上	男性	全世界への新型コロナウイルス感染拡大により、社会の価値観や対人関係が多く変化している昨今、新しい基準での「こころのユニバーサルデザイン」が必要となっている。それには今までの価値観と違った優先順位や道德観を検証することが大切
70 歳以上	女性	思いやりは必要ですが、知らない人に親切にされても気持ち悪いです。電車で具合の悪い時、席をゆずってもらったのは嬉しかったけれど、階段で荷物をもってくれと言われたとき、知らない人には頼めなかった。状況次第です
70 歳以上	男性	自分自身を労わることが、ひいては他人を労わることになると思う
70 歳以上	女性	お互いに思いやりの気持を持つことが望まれる
70 歳以上	女性	若い人も高齢者も常に他の人を思いやり、安全・安心な日常を心がける事が必要
70 歳以上	女性	このような非常事態こそ、お互いを思いやる気持ちが大事なのではないかと思いました
70 歳以上	女性	普通の生活で小さな助け合いはしていると思う。特別の事をしていとは思わない。ユニバーサルデザインなどと横文字を使われると特別な事かと思って緊張してしまうが、人間として当然の事でしょうに…と思う
70 歳以上	女性	列に並ぶ所がわからなかった時に、店員さんが丁寧に教えてくれたので安心した。次回からは、そのようにして並べたので良かった
70 歳以上	女性	先日、マスクを忘れてしまいました。お店の方が手作りで1回しか使用出来ませんと渡して下さいました。思いやりを感じました
70 歳以上	男性	他者への配慮に基づいた、自分なりの判断の大切さ
70 歳以上	男性	あれこれ身がまえた行動より、自然に生まれる行いが必要かと思います。社会でも学校でも、もう一度いたわりの精神を高める事が必要ではないでしょうか

第3章 調査結果の概要と分析

【本市のユニバーサルデザインの推進に関するご意見/ご提案】

問19:その他、本市のユニバーサルデザインの推進に関し、ご意見やご提案などがありましたら教えてください。

<全体>

○ユニバーサルデザイン自体が分からないため普及・啓発が必要、分かりやすい事例を周知してほしいとのご意見を多数いただきました。また、公共性の高い施設や設備に早期に取り入れてほしい、ICTやスマートシティの取組と連動させて推進すべきとのご意見もいただきました。

年代	性別	回答
20代	女性	若い人は広報を見てないと思う
20代		市役所の方々は、会津若松を愛して下さっていますか？ユニバーサルデザインの推進はみんながどれだけ会津若松市を愛しているかが重要になってくると思います。愛し愛される町づくりに私も貢献していきたいです
20代		道路はほんとに道がわるく安全でない。穴みたいにアスファルトがぬけていたり、道路がへこみ川のようになっていたり、水たまりがあって困る。マンホールもでっばっているし、気持ちばかりにうめられたアスファルトがむしろガタガタして、子供を乗せて運転するのに不安
20代	男性	市民の声を聞く機会が少なく、アンケートも限定的。何をするにも市民は関わっていない気がします。本当のユニバーサルデザインは市民の心がひとつになる事。それは絶対的に必要な事です。形だけ作っても価値がありません。作っている人だけが満足しているものは市民の為のものではありません。まずは市民の存在価値を認めるところからです。人から育てデザインして下さい。よろしくお願いします
20代	女性	ユニバーサルデザインという言葉自体、あまりよく知られていない事が多いような気がします。なので学校などの教育の中で、このことについての学ぶ機会を増やして、さらに市政だより等、人の目につきやすい所にそのデザインと意味がわかるようなポスター等を貼るなど、生活に浸透させることが必要だと思いました
20代	女性	いつも市役所に案内係さんがいてくださり利用しやすいです
20代	女性	危険のない(少ない)道路の整備と、自動車を運転する際の思いやりを持った運転(横断歩道等で止まらない車や、自動車同士でも合流地点や道路をはさんだ右左折時の思いやりがない)
30代	男性	融雪道路を増やしてほしい
30代	男性	今回の調査で私は、ユニバーサルデザインについて理解を深めることができました。この言葉などについて考える・知ることが大事だと思うので教育やイベントなどを行えば推進につながるのではと思います

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
30代	女性	会津若松市は「財政難」なのは知っています。(仕方がありませんが)何もしていないように感じます。(ヘルプマークの理解度も無いし)市役所に行くと、障がいのある私には看板に気付かない時があり不便です。行くのが嫌ですね
30代	女性	ユニバーサルデザインで暮らしやすいとかになるのかがイマイチピンとこない
30代	女性	点字ブロックの破損が多い様に感じます。雨の日、車の水しぶきがすごい所は多々あるので、通学路などは道路のへこみを直して頂くか、水のたまりにくいアスファルトに変えて欲しい
30代	女性	学校や企業で積極的に取り組んでいったらいいと思います
30代	男性	ユニバーサルデザインと言う言葉を初めて聞いたので、もっと分かりやすく、子供から大人まで分かるように工夫したほうがいいと思います
30代	女性	ハード面の整備は時間がかかると思うが頑張してほしい。ハード面からユニバーサルデザインについて気付くこともある
30代	男性	正直言って、ユニバーサルデザインの推進をされていると肌で感じたことは一度もありません。子育て世帯ですが、子育てしやすいと思ったこともないです。小児科はいつも混んでいるし、公園は一極集中(総合公園)だし、屋内遊び場は少なく、道は歩きにくくガードレールもない
30代	女性	住んでいる街が暮らしやすく、居心地の良いものとなるよう願っています
30代	女性	こどもに優しいまちづくりをしてほしい。施設や公園をもう一つ作ってほしい。遊ぶ所が限られており、休みの日の遊びに困っている。家でゲーム・YouTube が多くなってしまう(→肥満にもつながる)
40代	女性	今まで気にしたことがなかったのでこれを機にしっかりみて行きたいと思う
40代	女性	使いやすい器や日用品のデザインや開発に力を入れてほしいです。会津の伝統工芸品でそのようなものがあればいいなと思います
40代	女性	あいづっこ宣言の「五、会津を誇り年上を敬います」ですが、敬える年上が少ないです。特に年配男性の男尊女卑的な行いやマナーの悪さは目につきます。子供が堂々とあいづっこ宣言を言える様な会津になってほしいと思っています
40代	女性	都会と違い地方はUDをフルに活用するのはとても難しい。他を受け入れることを学ばないと推進は難しい。行政が率先して示していくことが望ましい
40代	女性	誰もが暮らしやすい環境を作るのはとても大事だと思います。高齢化社会にて予算も大変だと思いますが、住環境サービス含めて、少しでも人に優しい会津若松でいて欲しいと思います

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	女性	このような時だからこそ、メディアを使い市民への意識向上の言葉かけをたくさんしていただきたい。しかも具体的な言葉で具体的に話しかけてほしいと思います。あきらめず、めげずに最後までがんばる！それが愛だと思うのです。その人その人の存在を認めあうことがユニバーサルデザインだと考えます。例を挙げると、お隣りやお近くに1人暮らしの高齢者がお住まいではありませんか？あなたにできることは、声をかけることです。大きな声で「おはようございます」「お元気ですか」「今日はお天気がよいですね」これだけでもよいのです。毎日笑顔で声かけをしましょう。とか、家の前で散歩している人はいませんか？時々お会いになる時、声かけあってみましょう。「こんにちは」「今日はお天気がよいですね」「お子さまはおいくつですか」「かわいいね」「子どもは声かけして育つのよ」とか。毎日家の前を登校していく児童はいませんか？毎日声かけをしてあげてください。「おはよう」「ご飯食べた？」「傘もってる」「雨ふりそうだよ」「大丈夫？」など
40代	女性	今回のアンケートで市がとりくんでいる事がわかったので、もう少し自分も関心を持ってとりくんでいきたい。もう少し考えていきます
40代	女性	学校の通学路で横断歩道の白い線が消えている場所がたくさんあります。子供達の安全の為改善してほしいです
40代	男性	会津大やAict入居企業の力を借り、本市の強みを活かしICTの面からユニバーサルデザインを推進するのがよいと思う
40代	男性	無理にユニバーサルデザインを定着させなくてもいいと思う。「思いやり」で十分では。だれかが提案して進めているのはわかるが、全くなじみのない言葉なので定着には時間も費用も必要だろう。先ず駅前(若松)やお城から始めて、市政だよりなどで紹介していったらどうか
40代	女性	恥ずかしいですが言葉すら知りませんでした。知っている人少ないのではないかと思います。もっと浸透すれば意識されるのではないかと思います。マイナンバーカード、足の不自由な年寄りや1人暮らしの年寄りはどうすればいいのでしょうか。生活での優しくない事たくさんありますよね
40代	男性	目で見てわかる箇所からの取組み
40代		回覧板の活用(ネット使えない人)。町の放送(聞こえないのでやっているのかわかりませんが)活用(災害時)
40代		ユニバーサルデザインについて知る事ができてよかったです。自分なりに考えてみようと思います。ありがとうございました
40代	男性	「すべての人にやさしく暮らしやすいまち」は、今現在障がいを持つ子がいる家庭が暮らしやすいという訳ではありません。人によって合理的配慮を差別や特別扱いと考えることもあると思います。こういう人がいます、こんなことに困っています、こうしてもらえると助かります…、そういう基準は人それぞれなので難しいですが、こんな例がありますよという周知もあわせてしていただけるとユニバーサルデザインにつながっていくのではないかと思います
40代	男性	ユニバーサルデザインが普通になるよう頑張ってください

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
40代	男性	新庁舎の計画が進んでいるが、子供やおとしよりが待ち合わせ場所になるような、世間話ができるような、心地よい空間を作って欲しい
40代	男性	歴史を活用しての街づくりは、大変良いことだと思いますが、“あいづっこ宣言”、現在の会津などの人口分布・年齢比率からみても高齢より若い人が少ない状況です。年寄りを大事にしないわけではないが、お互いを大事にする風潮にそろそろシフトすることが肝要かと思います UD のサブタイトルにでも入れてみてはいかがでしょうか？
40代	女性	生活していて困ってしまう場面がある方にユニバーサルデザインをもっと増やしてほしいと思います。しかし、高齢者・障がい者などが分けられるとプライドがあるので、すべての人が同じように自然に生活できるというようです。あってあたりまえのような取り組みを望みます
40代	女性	会津若松市は城下町だったせいもありますが、市内に一方通行の道路があったり、迷路のような地域がある。仕方ありませんが移動しやすい道路が増えれば、災害時に助かると思います
40代	女性	どういう方がどういう所で困っているのかを知らないと、ユニバーサルデザインは認知されないと思います。市民がいろんな人々の困り事について知る機会がないといけないのかなと感じます
40代	男性	テレビを見ない世代が多い中、市の情報を得るのは紙ではない
40代	男性	会津若松市として推進している事がわからない。やるのであれば、一部の人間がわかるだけでなく、市民全員がわかるようにしてほしい
40代		”ユニバーサルデザイン”（これが当たり前になるのが最も望ましい状態）というカテゴリーが必要なくなることを願います
40代		こういうアンケートの実施を行うこと自体、市として思いやりや配慮をしていくことへの姿勢の表れだと思います。今後ともよろしく願います
40代	女性	私も何もわからなかったけど、このアンケートが届いていろいろ調べて知ることができました。もっとたくさんの方に知ってもらえると良いと思いました
40代	女性	一般的にバリアフリーは理解している方が多いと思いますが、ユニバーサルデザインについては、それほど理解している方が多いようには思いません。キャラクターの「ユニバ君」も初めて知りました。せっかくのキャラクターなので、もっと活用してほしいと思います
40代	女性	いつもありがとうございます。声を形にしていくことは大変だと思いますが、心身の健康一番でご活躍を期待しております
40代	女性	いろいろな取り組みが行われていると思いますが、浸透していない部分が多いので、色々な方法でより多くの方へ情報が届くように発信して欲しいです
40代	男性	UD の見本市のような施設を設け、実感・体験できる場があると良い
50代	男性	スマートシティの取組と連動させ、ハード整備やソフト整備の投資を増やすべき。例：ロボットの自動走行を実現→バリアフリーが必須。デジタルサイネージを街中に整備→多言語対応や情報提供の多様化を実現。見守りカメラを街中に設置→要配慮者への見守りや課題の可視化・収集・分析

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	男性	積極的に推進活動に取り組んでいるとは思いますが、市民全体に伝わるのは難しいことだと思いますが、頑張ってアピールし続けてください！
50代	女性	社会的弱者(高齢の方・障害のある方)にとって生活の困りごとやトラブルがあった時に市役所や警察の方が親身になって味方になってくれるような、ユニバーサルデザインをめざしてほしいです
50代	男性	精神的なことから、もっと広く意見を求めたらいいと思う
50代	女性	ゆにばくんの活用
50代	男性	ユニバーサルデザインの実践例を教えてもらえると理解も進むと思います(アンケートにも”これがユニバーサルデザインです”と示してもらえると良かった)
50代	女性	せっかくできたキャラクターを長く使い続ける事も大切だと思います。会津が好きという方がどんどん増えますように願っております
50代	男性	UDと声を大にして言わないUDが理想。町の案内板をイラスト等ひと目で見守るわかるように変更してほしいです
50代	女性	インターネットで検索してはじめて知りました。もうすこし勉強して、意識して行動したいと思った
50代	女性	ユニバーサルデザインではありませんが、未だにハンディキャップ駐車場に健常者が駐車しているのを見ると民度が低いなと悲しくなります。どのように啓蒙していけば良いのだろうと思います
50代	女性	市民だけでなく、観光地としていろいろな方が来られても過ごしやすい様、わかりやすい表示が大切だと感じます。行きたい所に行ける喜びを感じられる街にしていきたい
50代	女性	ユニバーサルデザインの対象となるものの範囲が広すぎて漠然としていて、よくわからない。全体を通してこのアンケートでよりよい街づくりへの改善へとつながるのか疑問です
50代	男性	歴史と伝統があり、全国的にも知名度が高い会津若松市が、ユニバーサルデザインを推進し発信していくことで、更なるイメージアップや観光客の誘致等へもつながると思う
50代	女性	様々な取り組みをしても、一部の人たちしか伝わっていないのが残念です
50代	女性	みんなのためになるようによろしくお願いします
50代	女性	「ユニバーサルデザイン」名称が良くない。見た瞬間にとばしてしまいそうです。「万人用」ではだめですか。「万人むけ」とか
50代		トップページからゆにばくんを知りました。市政だよりをじっくり閲覧する時間もなかなか取れず、今後市民として情報のへの理解・活用できる様に心がけ、子供(10歳)と共に考える様にしてゆきたい

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
50代	女性	会津若松市はまだまだ閉鎖的で、先んじて何かを実行していくには、程遠いように感じる。中通りや浜通りの方は、災害から頑張って復興しようとする姿が見え、会津もそれを越えて工業でも商業でも林業でも一人一人が心の壁を越えて進んで欲しいと思う。現状維持は間違いなく衰退につながると思う。若い力と共に頑張りましょう
50代	女性	すぐ雪がとける歩道を歩いた時は感動しました。新しい信号機は凹凸がなく薄くていいと思います
50代	女性	格差社会がなくなる限り、何に取り組んでも全てが解決するのは難しいと思う
50代	男性	広報活動が少ない様に思う
50代	男性	”こころのユニバーサルデザイン”とても大切な事だと思いました。特に本市においては。日常生活から必要とされるユニバーサルデザインを広く募ってみてはどうでしょうか。すばらしいアイデアを持っている市民がいるかもしれません。採用者にはアイデア賞を授与するとか
60代	男性	道路整備による歩道の確保、段差の解消など、物理的なところから直していったほうがいいと思います
60代	男性	今回質問の取り組みを知りました。今後意識的に取り組みについて考えていきます
60代	男性	生活に必要な所(銀行・郵便局・歩道・階段等)は全体に進んでいない。高齢者・障がい者等、生活弱者の公共交通機関の補助等考えて欲しい(バス等の無料化)
60代	女性	もっと障がい者自身の声を聞く場を設けてほしい。市役所職員も待つだけでなく外にでて状況を見るべき。高齢者でこのページを見ようと思う人がどのくらいいるでしょうか？
60代	女性	ユニバーサルデザイン 7つの原則に伴い、気がつけばあらゆる所に利便性が感じられます。今後の活躍に期待しています
60代		自分達大人や親が「心から必要性を感じて」取組むべきである。これが出来ない限り発展は難しい課題であり、市政がしっかり取り組んでほしい
60代	男性	周知徹底を図り、会津若松市民全員で前に進みましょう
60代	男性	今まであまり注視してきませんでした。解らないこと、学ぶべき事が沢山あることに気づき、これからは広報紙やいろいろな所で注意しながら学んでいきたいと思えます
60代	男性	職場や学校等での意識付けが必要。心のユニバーサルデザインには心のゆとりがなければ実現しにくいと考えるので、社会自体の働き方にも関係が深いと考える
60代	女性	うわべだけのつくり物ではなく、やはり一人ひとりの心の中にあると思います
60代	男性	推進にはあらゆる情報収集が必要と思われるが、市民から広く情報が得られる方策が必要である
60代	女性	すべての人にやさしく、他の地域から住んでみたいと思えるまちづくりをハード面ソフト面、こころのユニバーサルデザインを検討しながら改善していきましょう
60代	女性	いろいろな場所、場面でそこに合った物を考えていく必要はあると思います

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
60代	女性	最近一番困った事は、公民館のトイレがすべて和式で膝を手術した私には辛かったです。公共の施設は洋式がベスト！
60代	男性	テーマに対し外(例えば外国)に目を向け、積極的コンセンサsteamが学びリーダーの確立が必要
60代	女性	「ユニバーサルデザイン」という言葉と内容が結びつきにくく、ピンとこない。日本語ややさしい言葉へのおきかえができればと思う
60代	女性	一人ひとりの思いやりの心が大切
60代	男性	勉強会があればいいですね
60代		難しい問題だと思います。でも大事な事です。自分としては、わからない事が多いですが、よりよい生活が出来るように推進される事は有難いです。宜しくお願いします
60代	男性	スマホも無い高齢者に、トップページに行って QR コードなんて無理
60代	男性	駐車場での1台のスペースを広げていただきたい。公園・お城の清掃、ゴミのない道路など
60代	男性	推進していることすら、あまり知られていないと思う。もっと PR が必要
60代	男性	「ユニバーサルデザイン」とは何なのかわかりません。年齢的に、インターネットなども使えません
70 歳以上	男性	年々街が歩きやすくなっていると実感している。取り組みの継続を。
70 歳以上	女性	このアンケートを見てユニバーサルデザインのことを知りました。わからないばかりで、もうしわけないですが、元気にやっていきたいので意識して生活します
70 歳以上		高齢者にも分かりやすくしてほしい
70 歳以上		良く知りませんでした。とても良い事と思います。これから進んで行く事を願っています
70 歳以上	女性	市役所が何カ所にも分かれ利用しづらい。障がい者にとっては非常に困る(階段、通路の狭さなど)と思う
70 歳以上		市役所職員 or 市議会議員の方が 1 回/月位のペースで各地区は訪問して、高齢者との会話を出来る限り行い話を良く聞いてほしい
70 歳以上		道路を通ると、停止線などが消えていたり、判りにくい所が多いので、道路の整備を考えて欲しい
70 歳以上	女性	くり返して情報発信することが必要
70 歳以上	男性	妊婦・高齢・障害など差を考えず、自然体で接するのが良いと思います
70 歳以上	男性	”こころのユニバーサルデザイン”が各家庭で話し合わせ実践できれば素晴らしいと思います。毎月テーマごとに家庭で話し合えるよう、行政で工夫してみたいかですか
70 歳以上	男性	世の中少しずつ良くなっていると思います。まだまだ苦しい環境におかれている国民が多くいると思います。小さな力が大きな力になるのでは

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70 歳以上	男性	市政発展のため懸命に取り組んでいることに敬意を表します。しかし「ユニバーサルデザイン」という言葉が市民にどれ程浸透しているか。理念は解りますが、もう少し分かり易い表現はできませんか
70 歳以上	男性	推進大賛成です。今我々に対してすべての人にやさしく暮らしやすい町と言われてもピンときませんが、自分の身の丈に合った行動や協力をしていきたいです。幼少期からの道徳教育をしっかりと行う事も必要ではないでしょうか
70 歳以上		本市は他の市町村より市民や業者に対して対応が悪い
70 歳以上	女性	ユニバーサルデザインは人としてどうあるべきかという事だと思います。やさしさと思いやりを持って接すれば自分でもそれを受けようになると思います。こちらではあまり見た事はありますが、白い杖を持った人が電車に乗りそうだった時は側によりそって見てあげるとか、バスで身重の女性がいた時は席を譲ってあげるとか、そうした心が大切だと思います
70 歳以上	男性	当市のユニバーサルデザインの取り組み、推進について広報が不足しているのか、私自身の理解不足なのか十分分かりません。これからは理解促進に努めていきたいと考えますので、観光地にマッチした PR をお願い致します
70 歳以上	男性	最近、特に横文字が多く横行するようになってきた。もっと日本語で伝える事を大切にしてほしい
70 歳以上	男性	ユニバーサルデザインとはどういうことか理解してもらうことが最優先だと思う。すでに行っていることも、ユニバーサルデザインだと気付くと思う。ホームページ・トップページを開いて見る人は少ないと思う
70 歳以上	女性	歩道の脇などに座るところがあると、高齢者など少し休めると思います
70 歳以上	女性	市政だよりにユニバーサルデザインの実例を写真入りで載せるのは、とてもよいことだと思います。具体的で分かりやすいので、このまま続けていただきたいと思います
70 歳以上	男性	今回のアンケートでユニバーサルデザインに関心を持つことが出来ました。「センサー式の蛇口」がユニバーサルデザインによる製品だと知りました
70 歳以上	女性	燃えないゴミに日に出すカゴ類(市の指定)は、準備をするのがとても大変で、なかなか女性や高齢者には負担です。もっと楽に出したり収納したり出来る様にしてほしいと思っています
70 歳以上	男性	まだまだ理解が不十分なので、市民に対する啓発を積極的に行う必要がある。市民の自主性がないと効果も期待できない
70 歳以上	男性	まずは意識せずに UD がとけこむ環境を構成する事では。その為にはもう少し原点へ帰り、一人は万人の為に、万人は 1 人のために、そんな気持をもつ事ではと思います
70 歳以上	男性	ひとりひとりの市民がユニバーサルデザインについて理解できるよう、情報発信して、実践できるように期待する
70 歳以上	女性	各分野での取り組みの積み重ねにより、一人一人の意識改革や理解を深めていくことが望まれる

第3章 調査結果の概要と分析

年代	性別	回答
70 歳以上	男性	語句(ユニバーサルデザイン)が馴染まない気がする。日本語での表現も必要と思われます

附属アンケート 男女共同参画について

◆次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

- | | | |
|----------|-------------|---------------|
| (1) 家庭生活 | (4) 習慣・しきたり | (7) 自治活動や地域活動 |
| (2) 学校教育 | (5) 政治の場 | |
| (3) 職場 | (6) 法律や制度 | |

<全体>

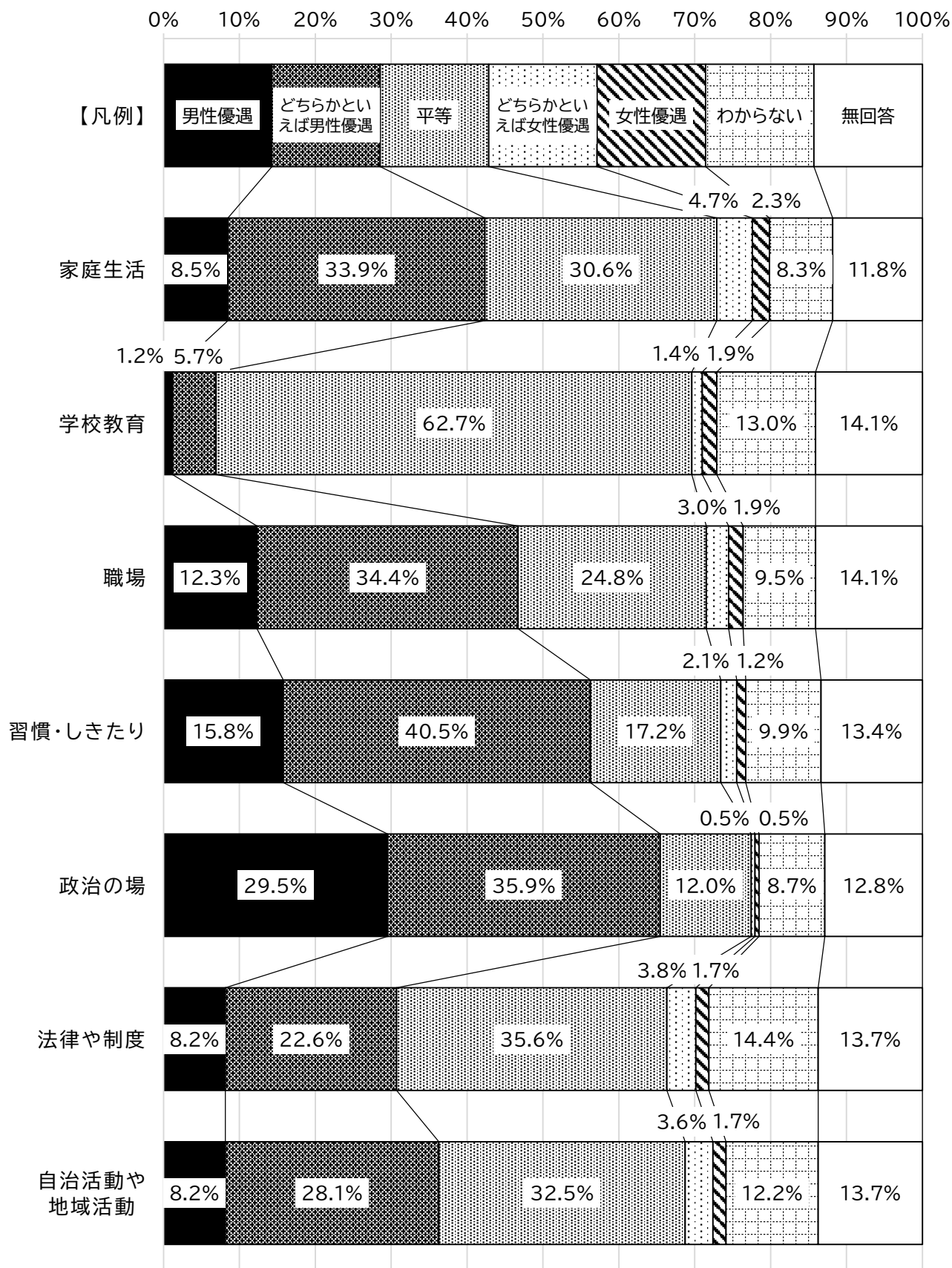
○「平等」との回答があった割合は、「学校教育」(62.7%)、「法律や制度」(35.6%)、「自治会や地域活動」(32.5%)の順に高く、「学校教育」が他の項目と比べ圧倒的に高くなっています。男女混合名簿の導入や共学校の増加の影響が伺えます。

○すべての項目で「女性優遇」「どちらかといえば女性優遇」との回答は7%以下となっており、「学校教育」以外の項目で「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」との回答が30.8%~65.4%であるのに対し、低い割合となっています。特に「政治の場」では、「男性が優遇」の回答割合が最も高く29.5%、「どちらかといえば男性が優遇」と合わせ65.4%と高い割合を占めています。

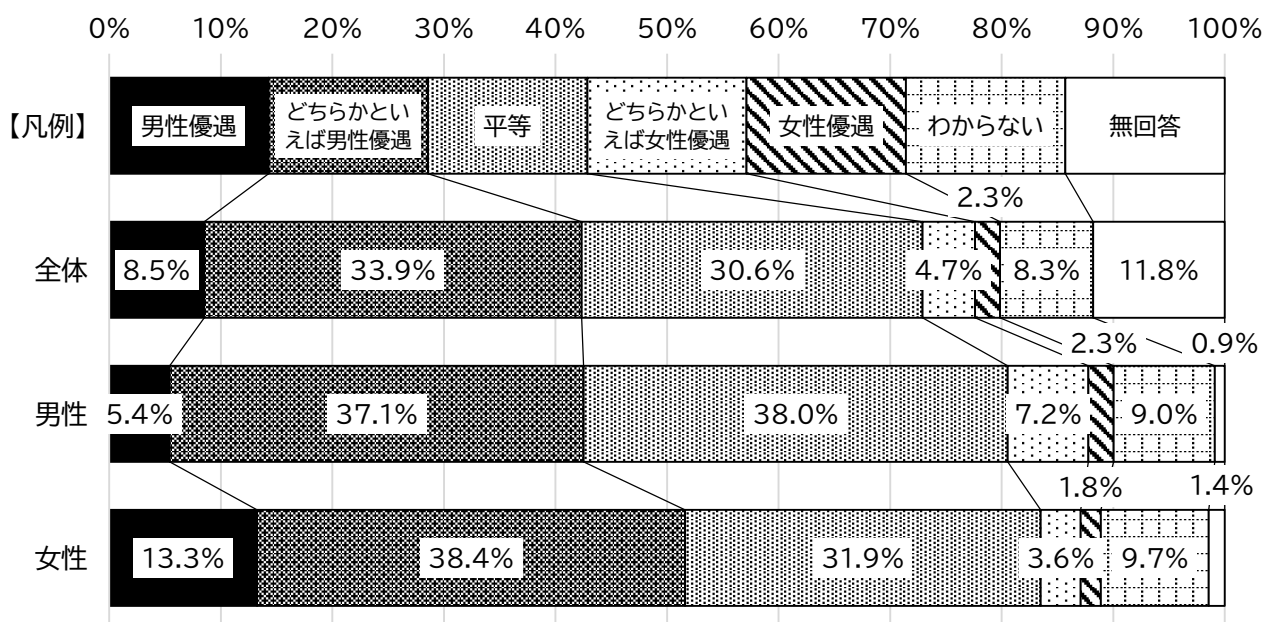
<性別>

○性別で比較すると、「男性優遇」の回答割合は、「家庭生活」(男性5.4%に対し女性13.3%)、「職場」(男性11.3%に対し女性16.1%)、「習慣・しきたり」(男性14.5%に対し女性19.7%)、「政治の場」(男性29.4%に対し女性36.6%)、「法律や制度」(男性6.8%に対し女性10.8%)となっており、男性と女性の認識に差があることが伺えます。

○全体



(1)家庭生活



【男性優遇】

- ・実際、家事は女性(自分、妻)がやっている。 ・男性は頼んでも家事をしてくれない。
- ・男尊女卑の習慣や、家事は女性がするものという固定観念がある。
- ・両親を見ていてそう思う。 ・男性は家事をやらないのではなく、できない。

【どちらかといえば男性優遇】

- ・実際、家事は女性(自分、妻)がほとんどやっている。
- ・男尊女卑の習慣や、家事は女性がするものという固定観念がある。
- ・家事や育児は母親がやれば「当たり前」、父親がやれば「すごい」
- ・「イクメン」と周囲がもてはやす。 ・主婦という言葉が主流。主夫という立場は不思議に思われる。

【平等】

- ・実際、家事を分担して行っている。 ・共働きのため協力し合っている。
- ・男性は家事・育児をしないという夫婦が同年代にはいない。
- ・既に男女平等の意識が一般的に浸透している。

【どちらかといえば女性優遇】

- ・男性(父親、夫)が家事をやるようになったから。 ・男性も家事ができないという考えがあるため。

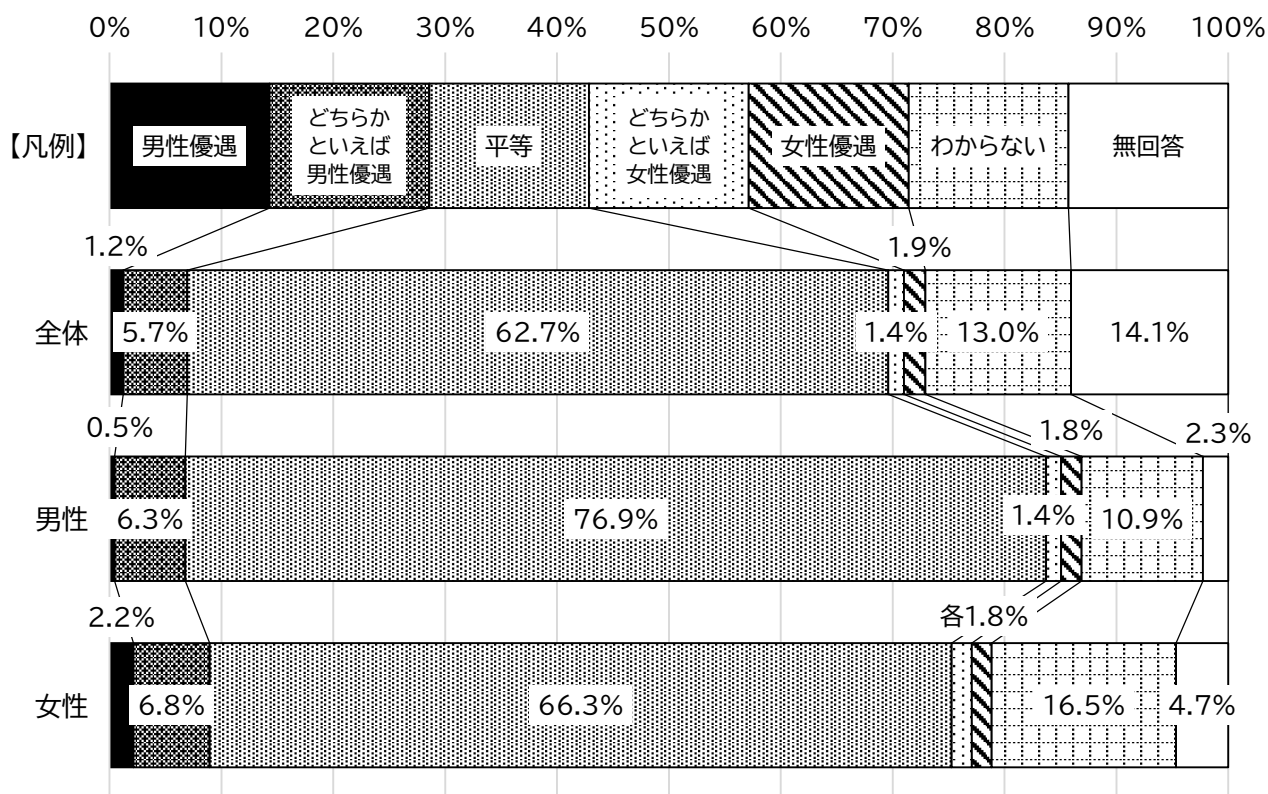
【女性優遇】

- ・自分がそうだから。 ・母親の方が立場が上のため。

【わからない】

- ・家庭環境はそれぞれだと思うから。

(2)学校教育



【男性優遇】

- ・特定の分野においては受験の際に性別で合否を判断されるから。
- ・職場である学校が男性優遇であるので、教育の現場も同じである。
- ・教員の男女割合。

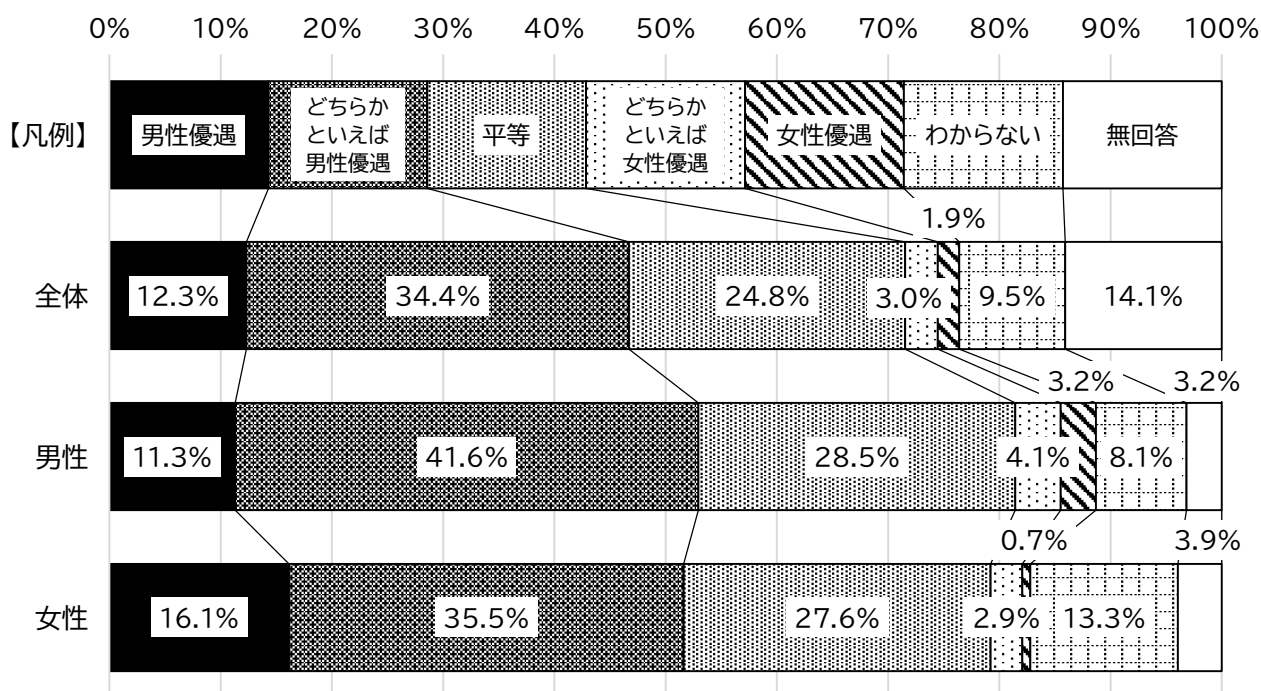
【どちらかといえば男性優遇】

- ・大学の特定の学部で受験など男性の方が優遇されている。
- ・地位・役割など平等と言っても根本的に男性優遇を感じる。

【平等】

- ・共学、男女混合名簿が多いから。
- ・自分や子どもが学校で男女格差を感じたことがないから。
- ・男性も看護師や保育士などになるための教育を受けられる。

(3) 職場



【男性優遇】

- ・賃金に差がある。昇給しない。 ・女性のリーダーや管理職が少ない
- ・女性は雑用が多く、ちゃん付けで呼ばれる。
- ・女性は「できない」という固定観念が残っている。

【どちらかといえば男性優遇】

- ・賃金に差がある。昇給しない。 ・女性のリーダーや管理職が少ない。
- ・結婚・出産時に女性は不利になる。キャリア形成が遅れる。

【平等】

- ・業務内容が同じであるため、差は感じない。
- ・女性の活躍が増えてきたため。

【どちらかといえば女性優遇】

- ・女性の方が転勤を許されることが多いと感じる。
- ・何かあるとセクハラと言われ、女性の参画・男女平等の名のもとに優遇されていると感じる。

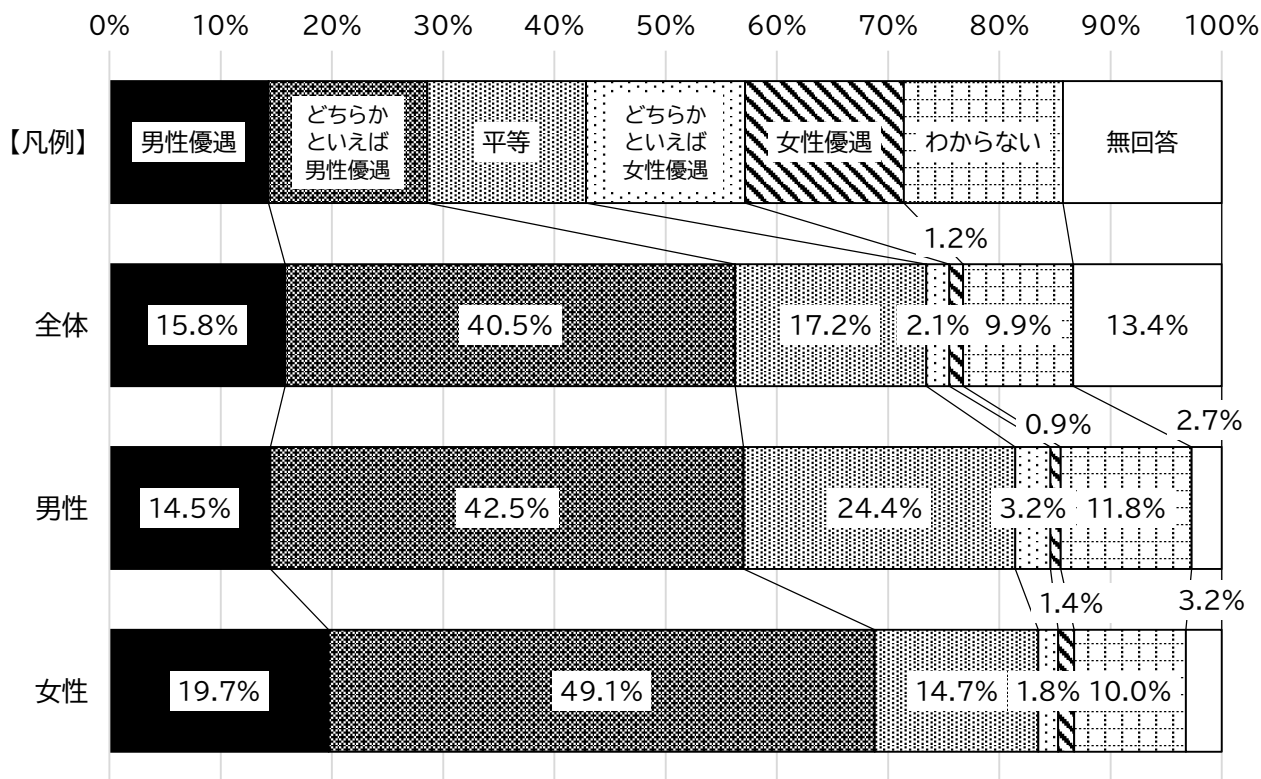
【女性優遇】

- ・女性の方が休暇を取りやすい。

【わからない】

- ・能力を的確に把握するのは難しい。
- ・性別ではなく、その人の立場や人格で優遇されていると感じる。

(4) 習慣・しきたり



【男性優遇】

- ・男尊女卑の文化が根強いから。
- ・歴史や文化、古い慣習が根強いから。
- ・地域や世代による価値観の違いが大きい。
- ・結婚したら男性の姓にするのがあたりまえという考えがある。

【どちらかといえば男性優遇】

- ・男尊女卑の文化が根強いから。
- ・歴史や文化、古い慣習が根強いから。
- ・地域や世代による価値観の違いが大きい。
- ・「昔からこうするもの」という考えが根強い。
- ・結婚時の改姓や、男児を生むことへの期待。

【平等】

- ・しきたりも変わってきている。

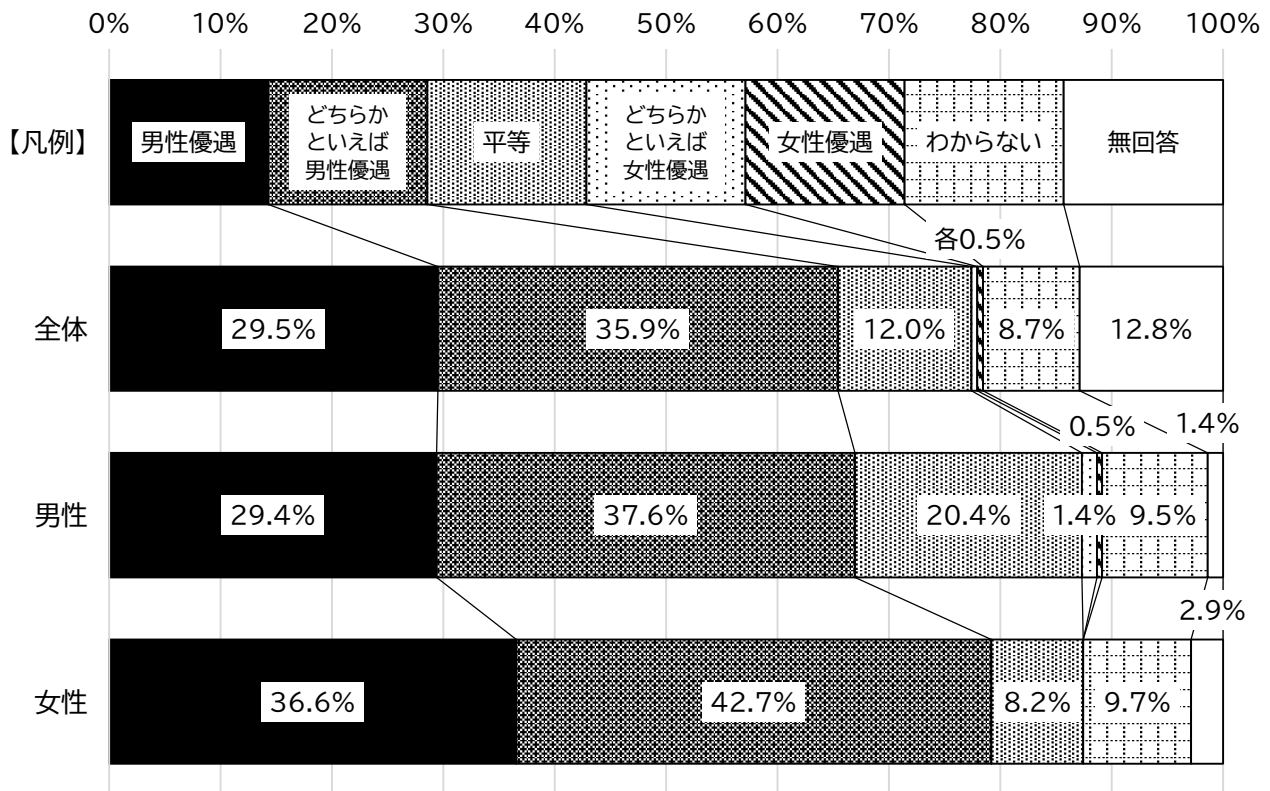
【どちらかといえば女性優遇】

- ・レディースデーという商慣習がある。

【わからない】

- ・男女平等の意味が時代によって変化してるため。

(5)政治の場



【男性優遇】

- ・男性議員が圧倒的に多いから。 ・女性議員が少なすぎる。 ・男尊女卑を感じる。
- ・発言や効率が悪い(時間的にも、生産性も)。
- ・女性議員が出産で長く休むと困るから。子育てがある以上難しい。
- ・女性が政治に消極的だから。

【どちらかといえば男性優遇】

- ・男性議員が多いから。 ・女性議員が少ない。
- ・世襲議員もおり、男性の方が当選しやすいように思う。
- ・女性議員は実力や能力があっても軽視されていると思う。
- ・女性蔑視の発言がみられる。古い価値観や意識の議員が大勢を占めている。

【平等】

- ・個人を尊重するから。 ・差があるとは感じない。

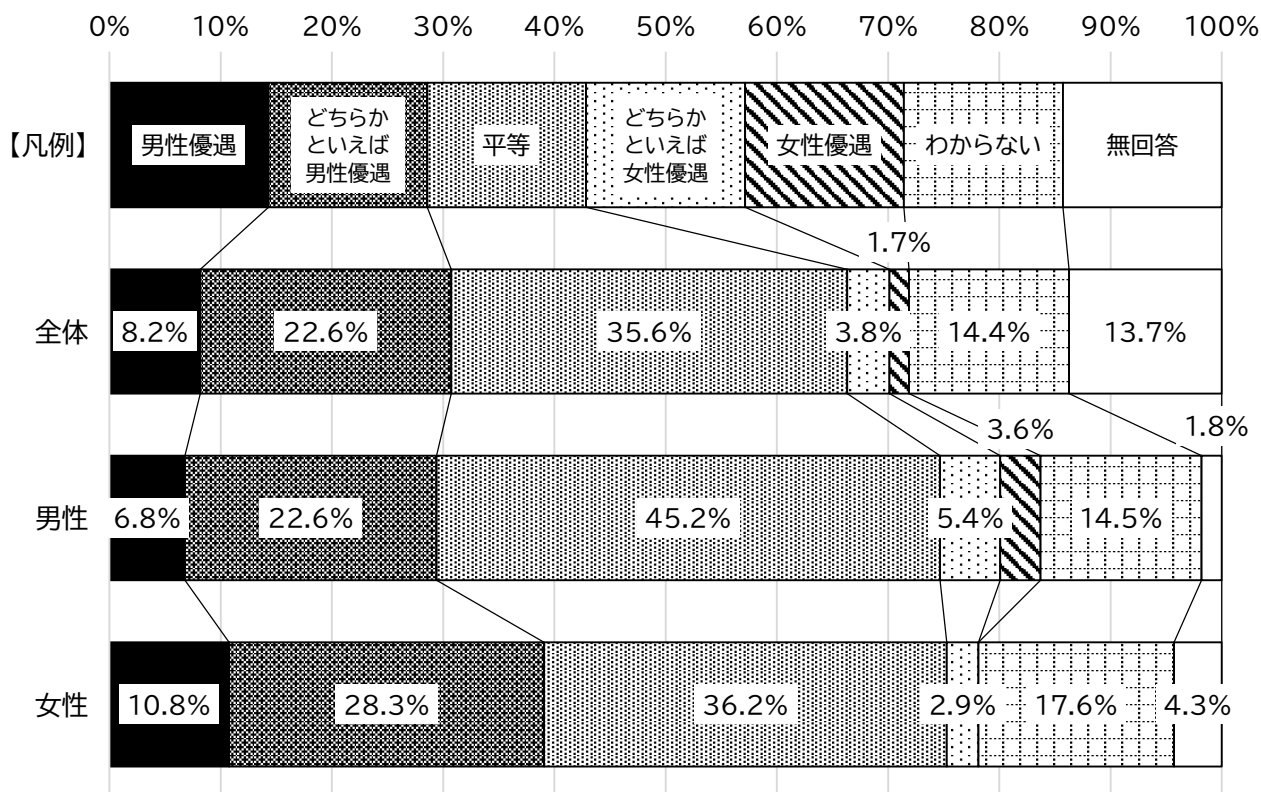
【どちらかといえば女性優遇】

- ・立候補の時点で若くて外見のよい女性が優遇されている。

【わからない】

- ・政治に興味がないから。

(6)法律や制度



【男性優遇】

- ・夫婦別姓など、結婚時に女性が手続きに手を煩わせなければいけないことが多い。
- ・「女性が」と言うわりに(改正が)進んでいない気がする。

【どちらかといえば男性優遇】

- ・作っているのが男性だから。
- ・(男性優遇の)古い法律が残っているから。

【平等】

- ・法律は平等であることが基本だから。

【どちらかといえば女性優遇】

- ・レディースデーやレディースプランなどがあるから。
- ・基本的に女性を弱い立場と考えた内容が多い(離婚時やシングルマザーへの手当等)。

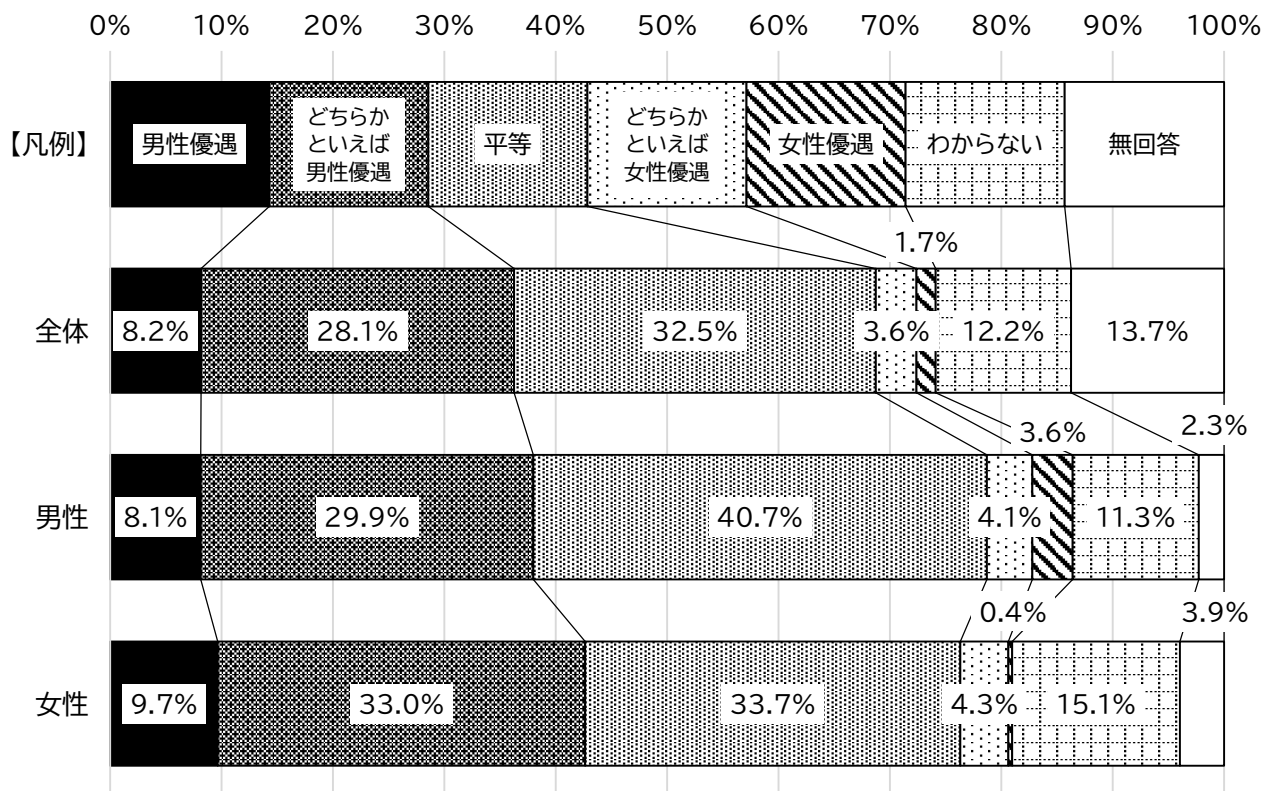
【女性優遇】

- ・女性の方が有利な制度がある(出産休暇、痴漢冤罪など)。

【わからない】

- ・性別で不利を感じたことがない。

(7)自治活動や地域活動



【男性優遇】

- ・区長はほとんど男性だから。
- ・地域や世代による価値観の違いが大きい。

【どちらかといえば男性優遇】

- ・役員は男性が多いから。
- ・男性の方が参加している人の割合が多いから。
- ・昔からの慣習。女性を軽視している。

【平等】

- ・意見を出し合って決めるから。
- ・不平等だと感じた事がない。
- ・女性の参加者が増えたため。

【女性優遇】

- ・消防団は男性がほとんどだから。

【わからない】

- ・地域によると思うから。